(28)高瀬山遺跡（遺跡番号430）

所在地　山形県寒河江市大字柴橋字落衣他

調査員　B調査　名和達朗

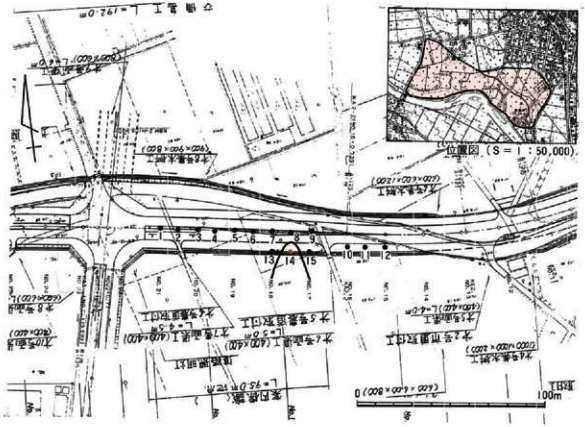
調査期日　B調査　平成9年5月20・21日

調査起因　主要地方道天童寒河江線道路改良

遺跡環境　遺跡は、寒河江市郊外南から南西方向の果樹畑、水田に位置する。この一帯は、高瀬山（標高122.5m）丘陵地及び微高地からなる最上川左岸の河岸段丘を形成する。遺跡は、緩やかな起伏のある段丘面を、最上川の流路沿いに東西に大きな広がりをもって立地する。その範囲は、東西1,600m・南北600mが考えられる。標高は、105～112.5mを測る。これまで東北横断自動車道酒田線等に伴い、遺跡のほぼ中央について東西方向に発掘調査が継続して行われ、旧石器時代から中世までの数多くの時期の資料が確認されている。今回の調査は、遺跡範囲の北西側に係る地区である。

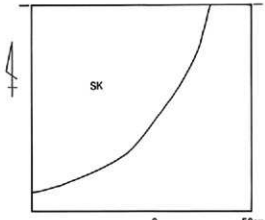
試掘状況　現道南側の区域の畑地について、道路センター杭を基準に概ね10m間隔で15ヶ所の試掘区を設定し、人力で地山面まで掘り下げ遺構・遺物の分布状況を調査した。

試掘結果　ＴＰ14から土壙と考えられる落ち込みの一部を検出できた以外、試掘ヶ所から遺構・遺物はみとめられなかった。遺構確認面は、深さ60cmを測る。そのため今回の調査区域は遺跡範囲の一部に係るものと考え、今後の工事に際しては、ＴＰ14地点について立会調査を行うこととした。

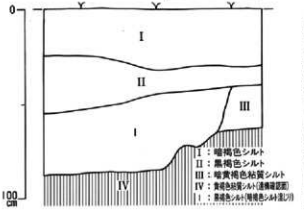


第53図　高瀬山遺跡概要図

遺跡近景（東から）



ＴＰ44遺構検出状況（南から）



ＴＰ44土層断面（南から）

図版59　高瀬山遺跡

(29)落衣長者屋敷遺跡（遺跡番号433）

所在地　山形県寒河江市大字柴橋字金谷他

調査員　B調査・立会調査　名和達朗

調査期日　B調査　平成9年5月20・21日
立会調査　平成9年12月10日

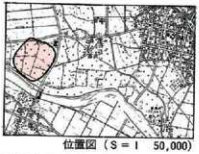
調査起因　主要地方道天童寒河江線道路改良

遺跡環境　寒河江市郊外南西に位置する。遺跡の南側は最上川左岸で、そこに微高地状に広がる河岸段丘に立地する。遺跡東方は、高瀬山（標高122.5m）丘陵を望み、中央を東西に東北横断自動車道酒田線が走る。遺跡範囲は、東西550m・南北600mと考えられる。地目は、大半が畑地・一部水田である。調査地区の標高は、約106mを測る。

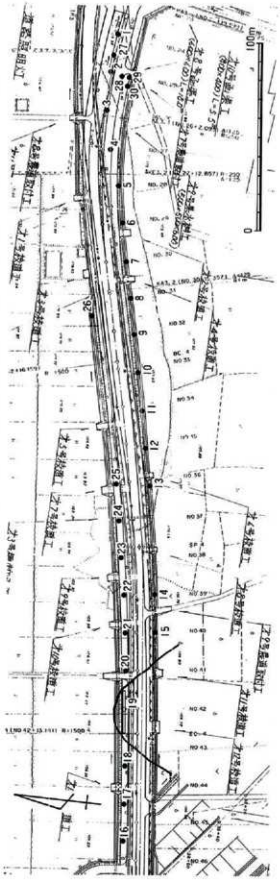
試掘状況　道路幅に沿って30ヶ所の試掘区を概ね20m間隔で設定し、人力で地山まで掘り下げ遺構・遺物の分布状況を調査した。東側については、現道から拡幅する工事幅が広いことから少し調査間隔を密に進めた。

調査結果　TP19で溝状遺構の落ち込みがみとめられた以外、遺構・遺物が検出できなかった。遺構確認面は、深さ56cmを測る。そのため今回の調査区域は遺跡範囲の一部に係るものと考え、今後の工事に際しては、TP19地点について立会調査を行うこととした。

試掘確認地点について重機使用によるトレンチを設定して立会調査を行った結果、柱穴2基、溝跡2条を確認した。出土遺物がみとめられなかったが、これまでの発掘調査結果を参考にして、時期は、奈良・平安時代以降の所産と考えられる。

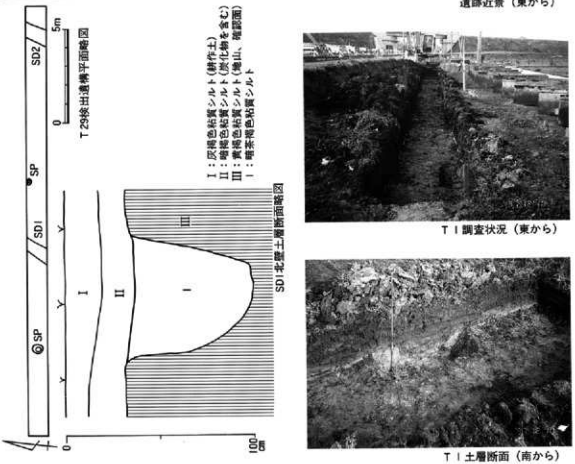


位置図（S＝1　50,000）



第54図　落衣長者屋敷遺跡概要図

遺跡近景（東から）



T Ⅰ調査状況（東から）

T Ⅰ土層断面（南から）

図版60　落衣長者屋敷遺跡

(30)大樽遺跡（米沢市遺跡地図G－150）

所在地　山形県米沢市舘山４丁目ほか

調査員　長橋　至　渋谷孝雄

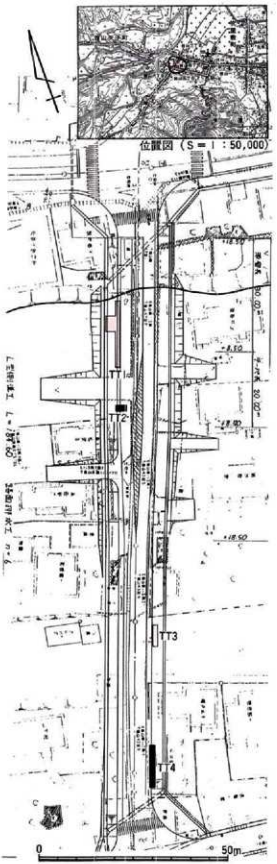
調査期日　A調査　平成９年11月11日
B調査　平成９年12月11～12日

起因事業　一般県道綱木西米沢停車場線道路改良

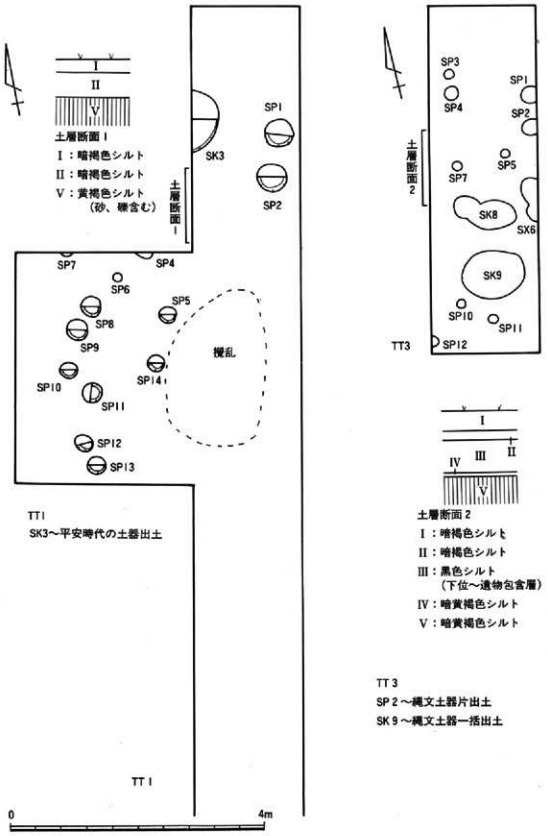
遺跡環境　米沢市街地南西部、大樽川右岸の河岸段丘上に立地する。本遺跡を含む範囲で中世の舘山平城のほか、国指定史跡「一ノ坂遺跡」、舘山ａ～ｄ遺跡等の縄文時代の遺跡が数多く所在している。

試掘状況　平成10年度事業実施予定地のうち、用地その他の状況から調査が可能な場所に試掘溝を設定し、重機で掘り下げた。北側からＴＴ１とし、ＴＴ４まで調査した。

調査結果　ＴＴ１は長さ17m、遺構が検出された部分については一部拡張した。遺構検出面までは、約50～60cmを測る。遺物包含層はない。遺構はトレンチ北側で確認された。土壙１基、柱穴13個で、ＳＫ２では平安時代の土器が出土した。このトレンチの南側は地山が砂礫層となり、遺構等は確認されなかった。ＴＴ２は遺構・遺物未検出、ＴＴ４は宅地跡のため、地山まで調査区の大半が攪乱を受けている状況であった。ＴＴ３ではまとまった遺構と遺物が検出された。この部分は良好な遺物包含層が認められ、またシルト質の地山となり遺構も明確に検出された。特に、ＳＰ２とＳＫ９では遺構確認面で縄文土器が覆土から出土する状況を呈した。ＳＫ９では一括出土の土器も見られ、検出したものについては取り上げた。出土した土器から時期は縄文時代後期と推定される。本遺跡は、現道下も一部良好に遺存していることが予想される。



第55図　大樽遺跡概要図



第56図　大樽遺跡検出遺構平面図・断面図

遺跡近景（南から）

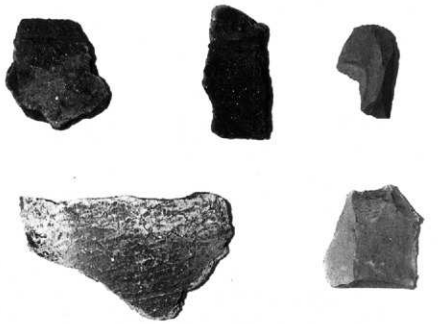
遺構検出状況（ＴＴ１、南から）

遺構検出状況（ＴＴ３、南から）

検出遺構、土器出土状況（ＴＴ３、南から）

土層断面（ＴＴ３、東から）

図版61　大樽遺跡（１）



出土遺物（１）

出土遺物（２）

図版62　大樽遺跡（２）

(31)藤島D遺跡（平成９度登録）

所在地　山形県飽海郡藤島町中町

調査員　長橋　至

調査期日　平成９年12月９～10日

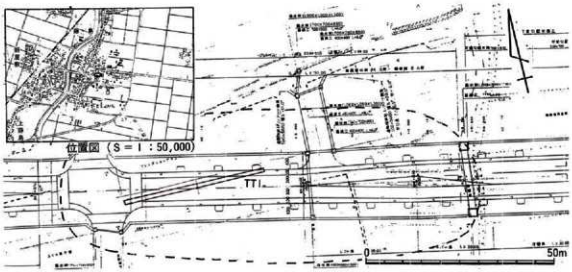
起因事業　藤島駅笹花線都市計画街路事業

遺跡環境　藤島町中心部に位置する。西側約200mに南北朝に遡る藤島城本丸がある。本遺跡は、旧藤島城下の一部となる。

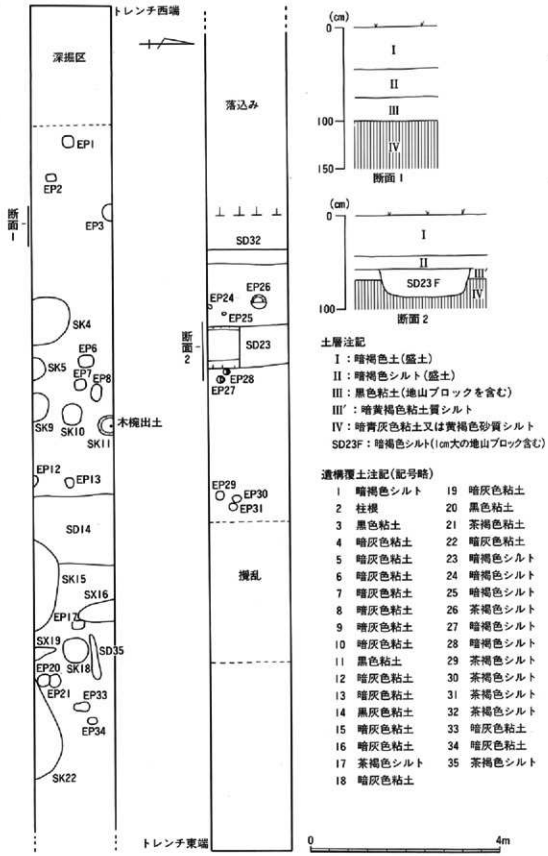
試掘状況　平成10年度事業実施予定地のうち、用地その他の状況から調査が可能な場所に重機で試掘溝を幅1.7m、長さ38mで設定した。なお、今回調査した地区の東側については改めて試掘調査を実施する。

調査結果　約10基の土壙、20個の柱穴、３条の溝状遺構が検出された。遺構は現地表から60～100cmの盛土層の下層で検出された。検出した遺構の配置、覆土の状況は第58図のとおりである。遺跡全体としては、過去の整地等で中世の遺物包含層はほとんど削平されているものと思われる。また、トレンチ中央付近で地山の落ち込み、東側で近代の攪乱が認められた。遺物は、ＳＫ11から木製漆塗り椀が出土したほか瓦器片が１点出土したにとどまる。遺構の状況把握のため、ＳＫ11、ＳＤ23、ＥＰ26～28について半截したが、これら遺構の時期を特定する遺物は得られなかった。しかし、調査対象地区は、藤島城域の東側の堀跡外側にほぼ隣接する地点（「筆濃余里」ほか）と考えられることから、南北朝時代から戦国時代、そして近世（江戸時代）に亘る遺構が存在することが予想される。

なお、現地調査時に、遺跡の位置を再確認したところ、当初藤島Ｂ遺跡とした今回の調査対象地区は、県指定文化財「独木舟」の出土地点の藤島Ｂ遺跡とは地点が異なることが明らかとなった。本来の藤島Ｂ遺跡は、現在の藤島郵便局移転前の旧郵便局の北側隣接地にあたり、現在の県遺跡地図に記載されている藤島Ｂ遺跡の位置は修正が必要である。



第57図　藤島Ｄ遺跡概要図



土層注記

Ⅰ：暗褐色土(盛土)
Ⅱ：暗褐色シルト(盛土)
Ⅲ：黒色粘土(地山ブロックを含む)
Ⅲ'：暗黄褐色粘土質シルト
Ⅳ：暗青灰色粘土又は黄褐色砂質シルト
SD23F：暗褐色シルト(1cm大の地山ブロック含む)

遺構覆土注記(記号略)

1	暗褐色シルト	19	暗灰色粘土
2	柱根	20	黒色粘土
3	黒色粘土	21	茶褐色粘土
4	暗灰色粘土	22	暗灰色粘土
5	暗灰色粘土	23	暗褐色シルト
6	暗灰色粘土	24	暗褐色シルト
7	暗灰色粘土	25	暗褐色シルト
8	暗灰色粘土	26	茶褐色シルト
9	暗灰色粘土	27	暗褐色シルト
10	暗灰色粘土	28	暗褐色シルト
11	黒色粘土	29	茶褐色シルト
12	暗灰色粘土	30	茶褐色シルト
13	暗灰色粘土	31	茶褐色シルト
14	黒灰色粘土	32	茶褐色シルト
15	暗灰色粘土	33	暗灰色粘土
16	暗灰色粘土	34	暗灰色粘土
17	茶褐色シルト	35	茶褐色シルト
18	暗灰色粘土		

第58図　藤島D遺跡検出遺構平面図・断面図

遺跡近景（西から）

遺構検出状況（トレンチ西側、車から）

図版63　藤島D遺跡（1）

遺構検出状況（トレンチ西側近景、車から）

遺構検出状況（トレンチ西側近景、西から）

遺構半裁状況（トレンチ東側、車から）

土層断面（ＳＰ３、北から）

出土遺物

図版64　藤島D遺跡（2）

(32)城南一丁目遺跡（平成９年度登録）

所在地　山形県山形市城南一丁目

調査員　渋谷孝雄　長橋　至　山形市教育委員会　江川　隆　斎藤　仁

調査期日　B調査　平成９年８月26・27日　平成９年11月17～28日

起因事業　山形駅西区画整理事業

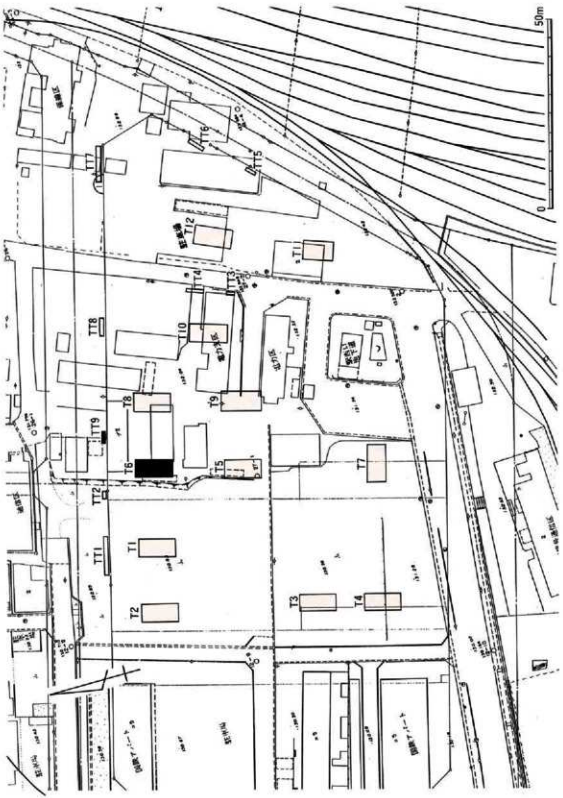
遺跡環境　遺跡はＪＲ奥羽本線山形駅の西側に隣接する。馬見ヶ崎扇状地の扇端に近い扇央部に立地する。標高は調査地で131m前後を測り、西に行くにつれて低くなっている。地目は宅地であるが現在は駐車場として利用されている。史跡「山形城」の本丸から南に500mの位置にあり、山形城の三の丸の域内に所在する。

同様な立地条件の遺跡としては本遺跡の南東1.5kmの山形市鉄砲町に所在する山形西高等学校敷地内遺跡があり、ここでは縄文時代中期、晩期、弥生時代中期、古墳時代前期、奈良時代、平安時代の集落跡と遺物が発見されている。

試掘状況　８月の試掘調査は駅西区画整理事業の中核的な施設となる高層ビルの建設予定となっている地区に埋蔵文化財が存在するのかどうかを明らかにするための調査で駐車場内外の空き地にＴＴ１からＴＴ９のトレンチを設定して地山までの掘り下げを行った。

11月の調査は８月の調査でその存在が明らかとなった遺跡の調査歩掛かりの積算のための調査で開発事業予定地区内にＴ１から12の12箇所に基本的には10×５ｍのトレンチを設定して調査を進めた。この調査では地山面まで掘り下げて遺構の分布状況を把握した上で、

第59図　城南一丁目遺跡位置図



第60図　城南一丁目遺跡トレンチ配置図

さらに、手掘り土量の総量を把握するために遺構の一部の掘り下げも行った。

なお、12月の調査経費は区画整理の事業主体である山形市がその費用を負担した。

調査結果　各調査トレンチの状況を以下に記す。TT1～9のトレンチ幅は0.7mである。

TT1は延長10mのトレンチである。現地表下80cm～110cmで暗褐色砂質シルトの地山に達する。地山までの各層は攪乱を受けており、遺構は確認できなかった。平安時代の土師器、縄文土器、近世の窯道具である陶枕が計4点出土した。

TT2は延長2mのトレンチである。現地表下145cmで黄褐色砂礫の地山に達する。遺構は未確認。攪乱層から土師器、須恵器、近世の磁器が小袋に1袋分出土した。

TT3は延長2mのトレンチである。現地表下140cmで黄褐色砂礫の地山に到る。約60cmの盛土から下位は比較的安定した堆積となっている。地山直上の黒色シルト層から土師器、赤焼土器が出土した。

TT4は延長5mのトレンチである。現地表下150cm～120cmで暗黄褐色シルトの地山に達し、地山面は南が低く、北が高い。東西方向の溝状遺構2条、方形の落込みの一部が検出された。遺構の時期は明確ではないが、中・近世の可能性が高いものと考えられる。赤焼土器2点、陶器2点が出土した。

TT5は延長2mのトレンチ。現地表下70cmで黄褐色砂質シルトの地山に達する。幅30cmの溝跡1条を検出した。遺物は出土していない。

TT6は延長6mのトレンチ。現地表下75cmで暗黄褐色砂質シルトの地山に達する。柱穴1基、土坑1基、方形の落込みの一部が検出された。方形の落込みは古代の竪穴住居跡の可能性がある。他に、旧国鉄時代のゴミ捨て穴が2基検出された。土師器片が小袋で0.5袋出土した。

TT7は延長9mのトレンチである。現地表下80cmで暗黄褐色砂質シルトの地山に達する。盛土の下は、安定した層となり、地山面で土坑3基、溝状遺構1条、柱穴9基を検出した。検出遺構は古代のものと、中・近世のものがある。土師器、磁器が数点出土した。

TT8は延長5mのトレンチである。現地表下100cmで地山に達するが、全体的に大きく攪乱を受けているため、調査を断念した。

TT9は延長3mのトレンチである。深さ150cmまでの掘り下げを行ったが地山に到達しなかった。クレゾールの異臭が激しく、旧国鉄時代の攪乱と考えられる。

T1は57cmから95cmで遺構確認面に達する。地山は北側に傾斜している。大型の土坑SK1や落込み（SX2、3）、幅70～100cmの南北の溝跡、ピットなどが検出された。一部精査を行った遺構からはいずれも近世の陶磁器が出土しており、遺構の時期は大半が近世とみられる。なお、SK1からは須恵器坏、壺、土師器甕の破片が出土している。

T2は82～100cmで遺構確認面に達する。地山はなく、調査区全てが遺構覆土となっている。SK1、2などこの面で確認できる遺構は大半が近世の所産と考えられるが、SK2の下層からは奈良・平安時代の土器がまとまって出土しており、近世に切られた古代の遺構の存在が予測できる。T2からは弥生土器も出土している。

T3は87～117cmで地山に達し、大型の落込み（SX1）や南北に走る溝跡2条等の遺構が検出された。SX1からは近世の陶器、磁器、かわらけ等が出土している。

T4は82～101cmで地山に達する。角柱をもつ掘り方（EB4）やEB3、大型の落込み（SX1）、南北の溝跡（SD2）のほか、小礫を突き固めた礎石建物の基礎部分が1列に4基検出されている。SX1では近世の陶器瓦が出土し、SD2では古代の土師器や須恵器片が出土しているが、近世のSX1を切っているので遺構自体は古くはならない。

T5は89～104cmで地山に達する。調査区北端にある大きな落込みSX1とその中に収まるSX3東西に走る溝跡、ピット群等が検出された。遺構の確認作業中に縄文土器、土師器、珠洲系の中世陶器等が出土している。

T6は全面的に攪乱を受けており、現地表から220cmで黄褐色砂礫の地山に達するが、この面では遺構が発見されなかった。

T7は東西トレンチで100～119cmで達する。不整形で大型の落込みが数カ所で検出されたほか、ピットが数基検出された。遺物はSX2から縄文土器や土師器が出土したのをはじめ、奈良、平安時代の須恵器や土師器の出土量が比較的多い。

T8は現地表から80～90cm下位では攪乱が認められ、明瞭な遺構プランを明らかにできず、さらに10～20cm掘り下げた南部で部分的にピットなどの遺構が検出された。遺物は若干の近世陶器が出土するに留まった。

T9は110～130cmでやや明るい暗褐色土の地山に達する。この地山面で落込みや土坑（SK1）、溝跡が検出されたが、これらの部分精査の結果、深い遺構はなく、例外なく底面は地山の下位にある礫層となることが明らかとなった。遺物は遺構に伴う近世の陶器片と土師器片がある。

T10は106～143cmで遺構確認面に達するが地山の黄褐色砂礫が検出されたのは調査区の南東隅に限られ、他は遺構覆土となっている。大型の落込みやそれを切る土坑（SK1）、溝跡などが検出されている。SK1、SX2から近世陶器と土師器、須恵器などの土器片が出土している。

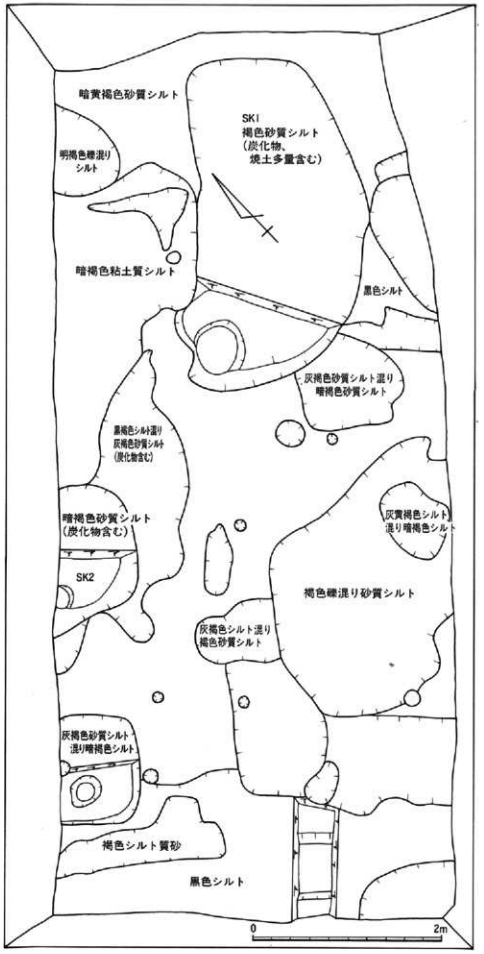
T11は86～107cmで地山の明褐色シルトに達する。調査区の北部を除き大型で不整形な落込みが切り合っている。部分的な精査でこれらの落込みは確認面から1mを越える深さを持つ遺構も存在することが明らかとなった。土師器や須恵器と近世の陶磁器が出土している。

T12は114～135cmで地山の黄褐色砂質シルトに達する。調査区の北半は大きく攪乱を受けている。南半部で落込みやピットが検出されているが、密度は高くはない。遺物は近世の陶磁器の他、奈良、平安時代の土師器、須恵器片が出土している。

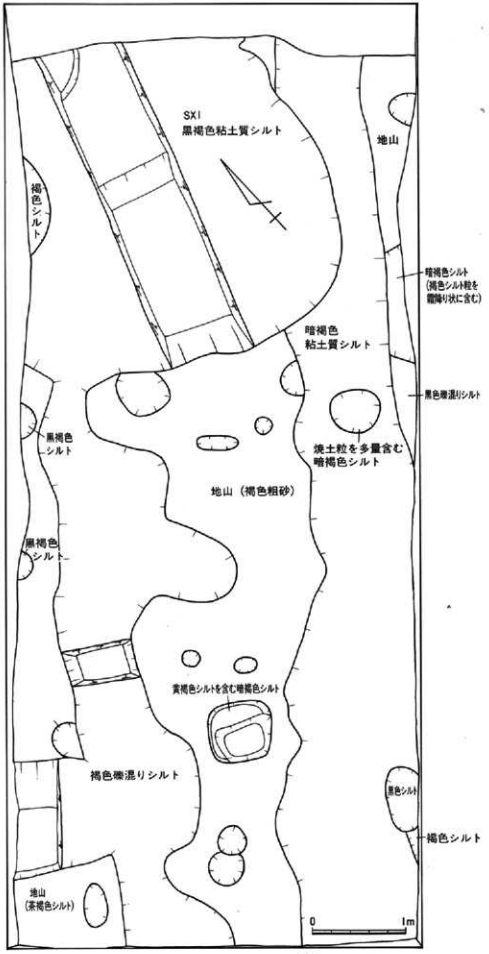
以上のように、本遺跡には近世を中心とする遺構が多数分布していることが明らかとなった。出土した遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、中世陶器、近世の陶磁器、瓦、近現代の陶磁器がある。量的には奈良・平安時代の土師器、須恵器が多数を占めるが当該期の明確な遺構は検出できなかった。

第61図　城南一丁目遺跡ＴＴ４・６・７平面・断面図

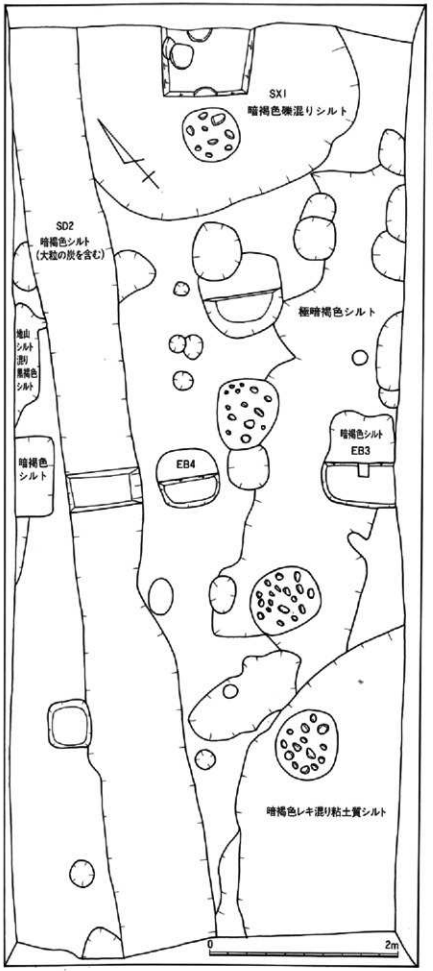
第62図　城南一丁目遺跡ＴＩ平面図



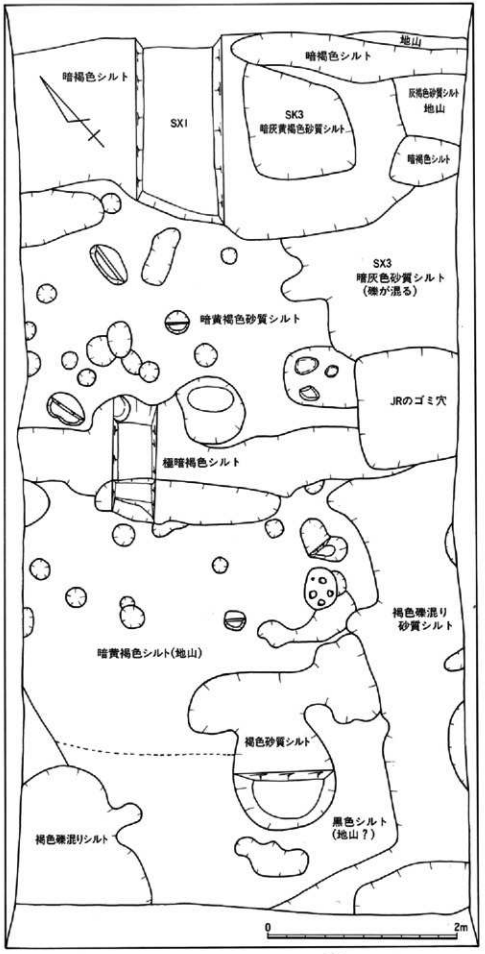
第63図　城南一丁目遺跡Ｔ２平面図



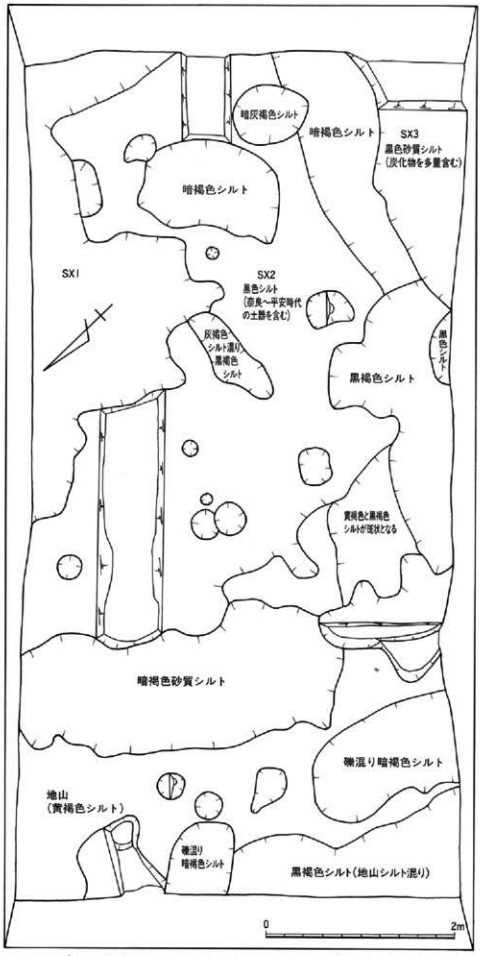
第64図　城南一丁目遺跡Ｔ３平面図



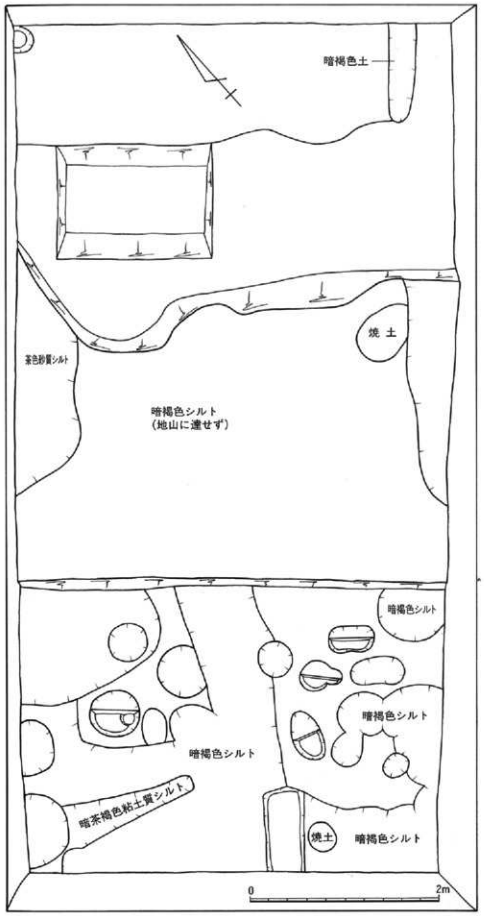
第65図　城南一丁目遺跡Ｔ４平面図



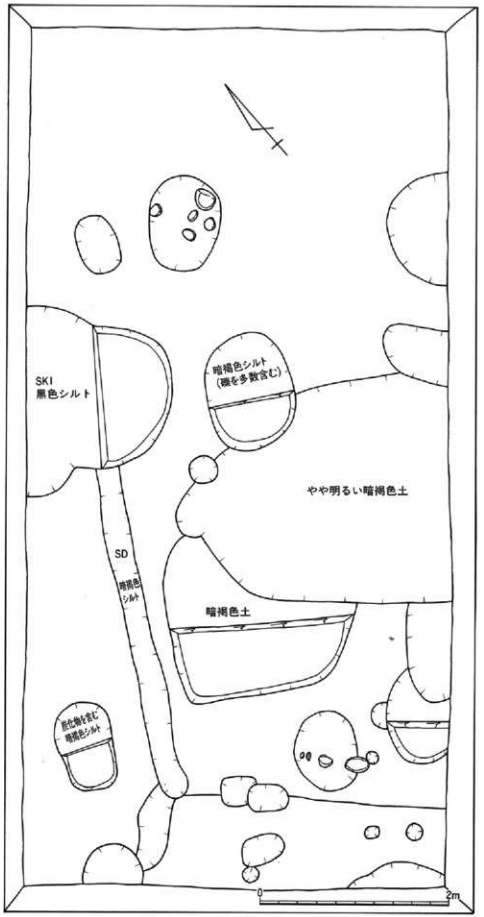
第66図　城南一丁目遺跡Ｔ５平面図



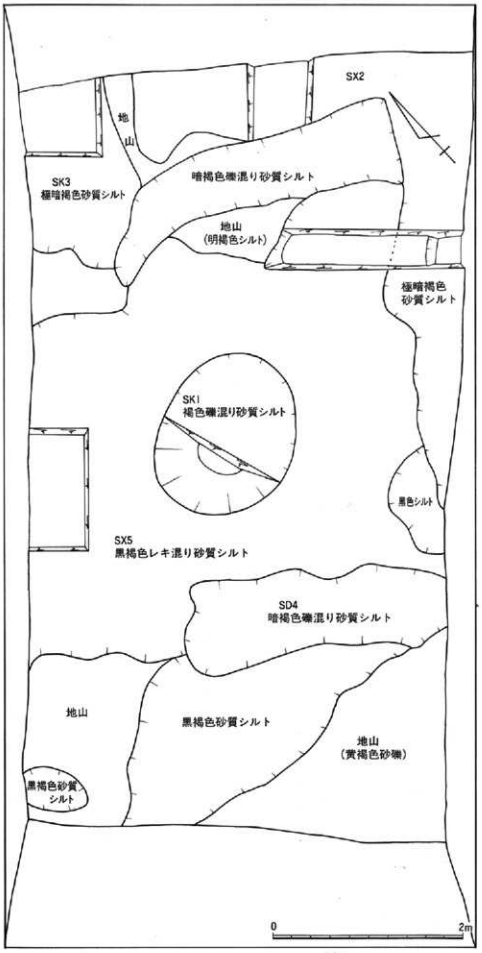
第67図　城南一丁目遺跡Ｔ７平面図



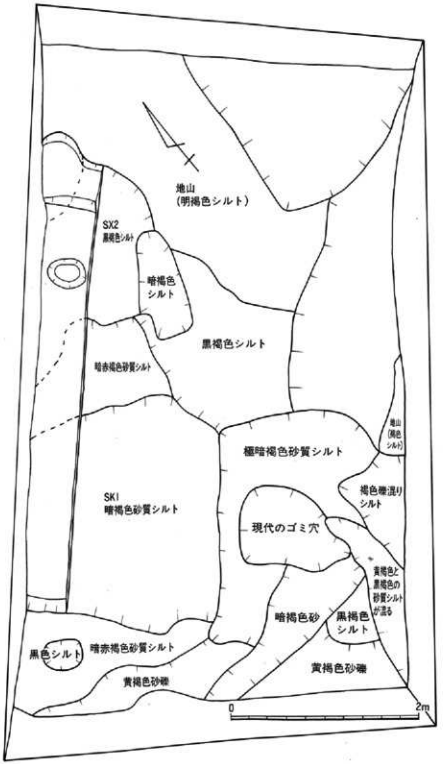
第68図　城南一丁目遺跡Ｔ８平面図



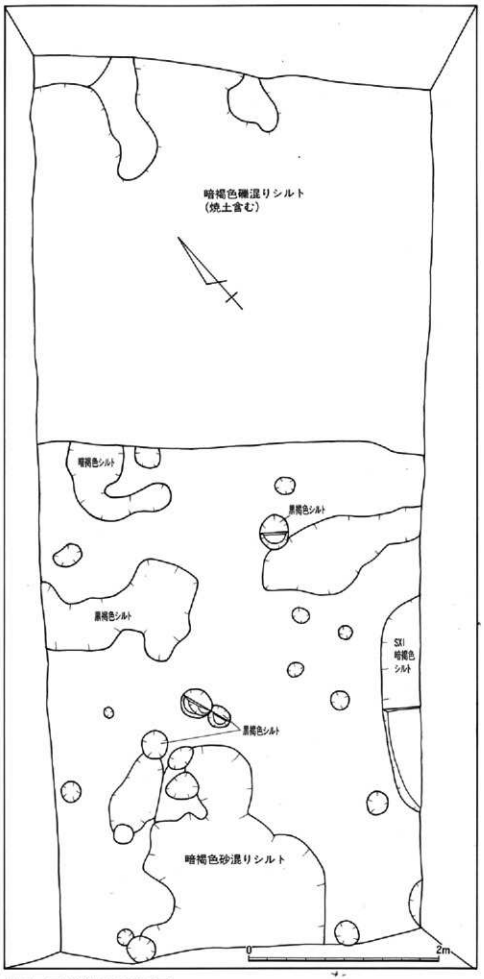
第69図　城南一丁目遺跡Ｔ９平面図



第70図　城南一丁目遺跡Ｔ10平面図



第71図　城南一丁目遺跡T11平面図



第72図　城南一丁目遺跡T12平面図

遺跡近景（北から）

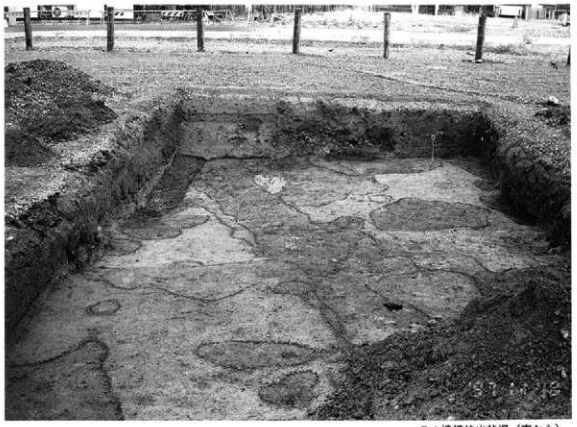
ＴＴ４遺構検出状況（北から）

ＴＴ６遺構検出状況（南から）

ＴＴ７東部遺構検出状況（東から）

ＴＴ７西部遺構検出状況（北から）

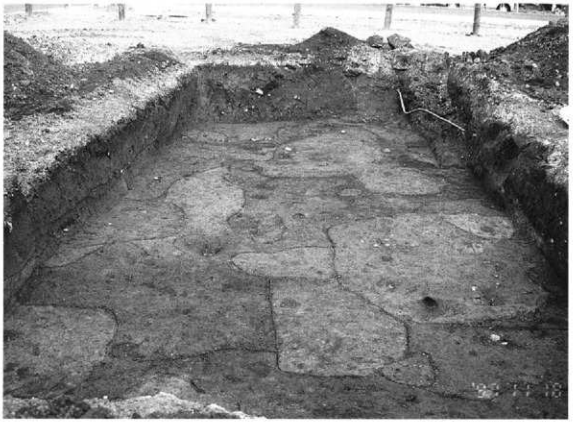
図版65　城南一丁目遺跡（１）



ＴＩ遺構検出状況（南から）

ＴＩ検出遺構部分精査（南から）

図版66　城南一丁目遺跡（２）



T２遺構検出状況（南から）

T２遺構部分精査（南から）

図版67　城南一丁目遺跡（３）

T３遺構検出状況（南から）

T３遺構部分精査（南から）

図版68　城南一丁目遺跡（４）

ＴＴ４遺構検出状況（南から）

Ｔ４遺構部分精査（南から）

図版69　城南一丁目遺跡（５）

Ｔ５遺構検出状況（南から）

Ｔ６全景（南から）

図版70　城南一丁目遺跡（６）

T 7 遺構検出状況（西から）

T 7 遺構検出状況（南西から）

図版71　城南一丁目遺跡（7）

T T 8 遺構検出状況（北から）

T 8 南半部遺構検出状況（西から）

図版72　城南一丁目遺跡（8）

T 9遺構検出状況（北から）

T 9遺構部分精査（南から）

図版73　城南一丁目遺跡（9）

T10遺構検出状況（（南から）

T10遺構部分精査（南西から）

図版74　城南一丁目遺跡（10）

T11遺構検出状況（北東から）

T11西部落込み一部精査（南東から）

図版75　城南一丁目遺跡（11）

T12遺構検出状況（南西から）

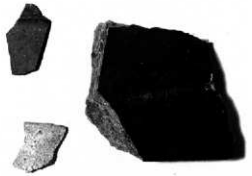
T12遺構部分精査（南東から）

図版76　城南一丁目遺跡（12）

T1SK1出土遺物（須恵器、土師器）

T1SK1出土遺物（近世陶器）

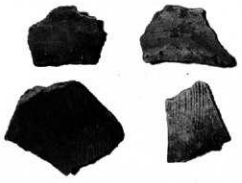
T1SX2出土遺物（近世陶器）



T1SX3出土遺物（須恵器、近世瓦）

T２出土遺物（須恵器）

T２出土遺物（須恵器）



T２出土遺物（土師器）

T２出土遺物（弥生土器）

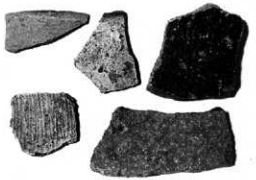
図版77　城南一丁目遺跡（13）

T２出土遺物（近世陶磁器）

T２出土遺物（近世陶器）

T2SK2出土遺物（土師器、須恵器）

T2SK3出土遺物（土師器）



T3SX1出土遺物（土師器、須恵器）

T3SX1出土遺物（近世磁器）

T3SX1出土遺物（近世陶器）

T3SX1出土遺物（近世かわらけ）

図版78　城南一丁目遺跡（14）

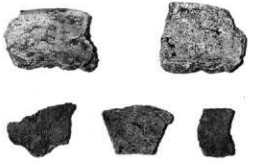
T 4 出土遺物（近世陶器）

T 4 出土遺物（近世瓦）

T4SX1出土遺物（近世瓦）

T4SD2出土遺物（須恵器、土師器）

T 5 出土遺物（縄文土器）



T 5 出土遺物（土師器）

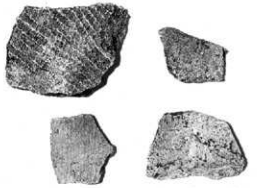
T 5 出土遺物（中・近世陶器）

T 7 出土遺物（須恵器）

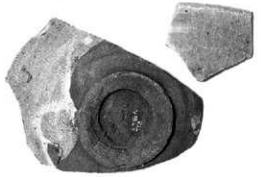
図版79　城南一丁目遺跡（15）

T 7 出土遺物（土師器）

T 7 出土遺物（近世陶器）

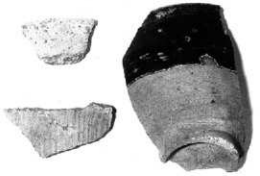


T7SX2（縄文土器）、SX3（土師器）出土遺物



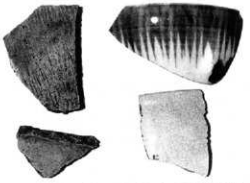
T 8 出土遺物（近世陶器）

T9SK1出土遺物



T10SX1（左）、SX2（右）出土遺物

T11出土遺物（左：土師器、右：近世陶器）



T12出土遺物（左：土師器、右：近世陶磁器）

図版80　城南一丁目遺跡（16）

(33)大浦(おおうら)ｄ遺跡（米沢市遺跡地図Ｊ410）

所在地　山形県米沢市中田町

調査員　長橋　至

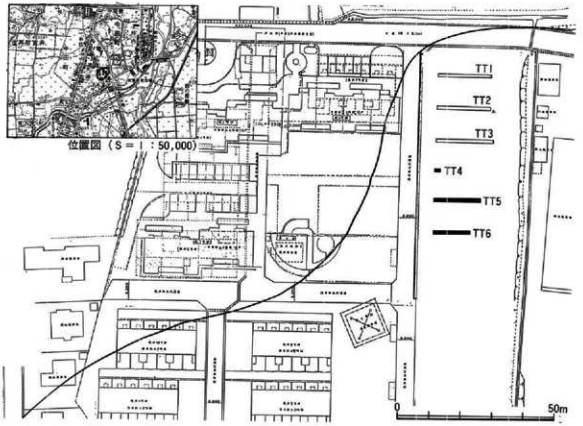
調査期日　平成９年３月28日

起因事業　県営住宅中田町団地建替事業

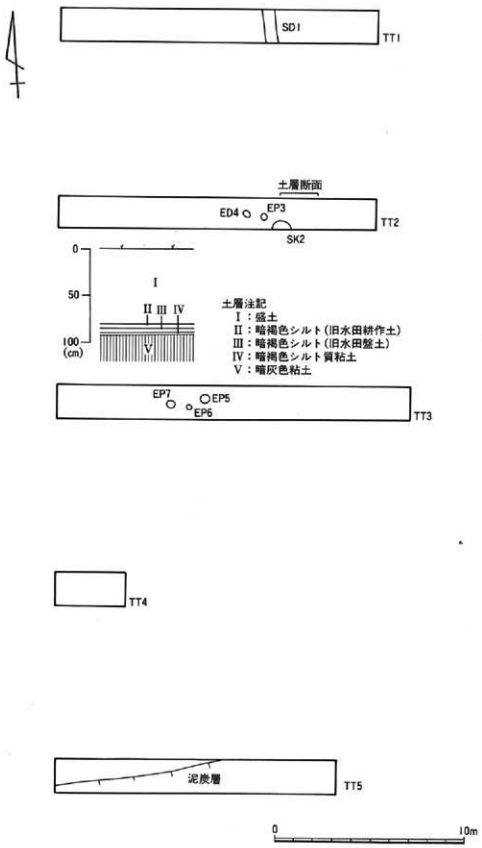
遺跡環境　米沢市街地北部、最上川（松川）と羽黒川の合流点の西側、最上川左岸の河岸段丘上に立地する。本遺跡周辺には、古代官衙跡と想定される大浦ａ遺跡、中世の集落跡・城館跡の大浦ｂ遺跡、古代官衙跡及び中世城館跡・集落跡と考えられる大浦ｃ遺跡が近接している。

試掘状況　県営住宅撤去後、事業予定地内に幅1.7ｍの試掘溝を全体で６カ所設定した。

調査結果　北側のＴＴ１～３で遺構が確認された。ＴＴ１では溝状遺構が１条検出された。幅70cm程で覆土は黒色粘質土である。ＴＴ２では径１ｍの土壙、径30cm前後の柱穴が２個検出された。覆土は黒色粘質土である。ＴＴ３では柱穴が３個検出された。ＥＰ５・７は径40cm、ＥＰ６は径20cmを測る。覆土はいずれも黒色粘質土である。ＴＴ４は、試掘溝設定地点に水道管が敷設されていたため、４ｍの調査で中止した。ＴＴ５では調査区の南側が泥炭層となり湿地と考えられた。ＴＴ６も同じ状況を呈した。調査対象地は全体に120～130cmの盛土が認められた。隣接する大浦遺跡群の調査結果などから、中世の所産と推測される。なお、今回の対象地区は、団地の駐車場となるため、遺跡は現状保存とする。



第73図　大浦ｄ遺跡概要図



第74図　大浦ｄ遺跡検出遺構平面略測図

遺跡近景・調査状況（北から）

調査区全景（南から）

図版81　大溝ｄ遺跡（１）

土坑検出状況（ＴＴ２、北東から）

柱穴検出状況（ＴＴ３、西から）

図版82　大溝ｄ遺跡（２）

(34)四ツ塚遺跡（遺跡番号481）

所在地　山形県西村山郡河北町大字吉田字馬場164ほか

調査員　長橋　至

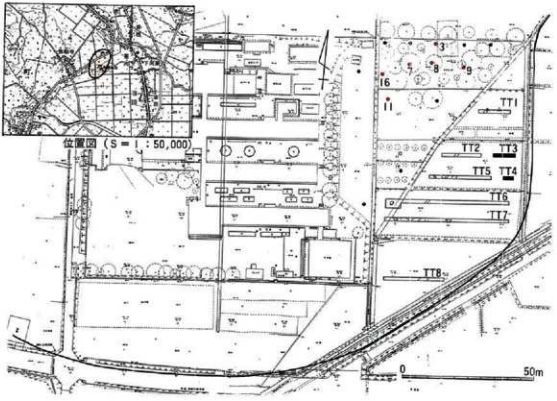
調査期日　平成９年９月８日　11月19日

起因事業　山形県立救護施設みやま荘改築整備事業

遺跡環境　河北町北西部の山麓の緩傾斜地に立地する。周辺の山麓には縄文時代や平安時代のいくつかの遺跡が散在している。

試掘状況　事業予定地について、９月に畑地・果樹園部分（試掘坑15カ所）、11月に水田部分（試掘溝８カ所、重機使用）を調査した。

調査結果　９月の調査では、15カ所の試掘坑のうち７カ所で遺構・遺物が検出された。ＴＰ３・８では柱穴１、ＴＰ６では土壙１基、ＴＰ７からは溝跡１条、ＴＰ９では土壙１基、柱穴３、ＴＰ11では柱穴、ＴＰ12では方形の柱穴２が検出された。遺物は全体に希薄で、須恵器・赤焼き土器片が散点出土した。西側畑地は、現みやま荘建築の際、削平されていることが明らかとなった。11月の調査では、南北方向に走る幅１～２ｍの溝状遺構がＴＴ３・４を除く試掘溝で連続して確認された。また、ＴＴ６では西端部で径１ｍ程の土壙が検出された。水田部分については、東側約３分の１の地山が砂礫となること、堆積土が泥炭質となることから遺構は分布しないことが予想される。調査対象地の大部分について、平成10年度に記録保存のための緊急発掘調査を実施する予定である。



第75図　四ツ塚遺跡概要図

遺跡近景（東南から）

土層柱状図

ＴＰ２検出遺構（西から）

ＴＴＩ検出遺構（南から）

出土遺物

図版83　四ツ塚遺跡

(35)田制館跡（平成９年度登録）

所在地　山形県東置賜郡川西町大字西大塚

調査員　渋谷孝雄

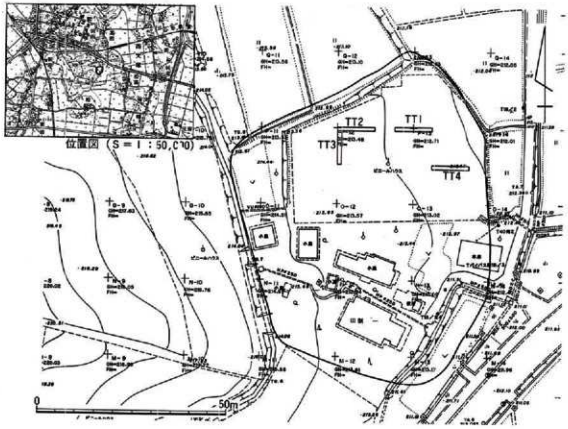
調査期日　平成９年６月16日

起因事業　公立置賜総合病院整備事業

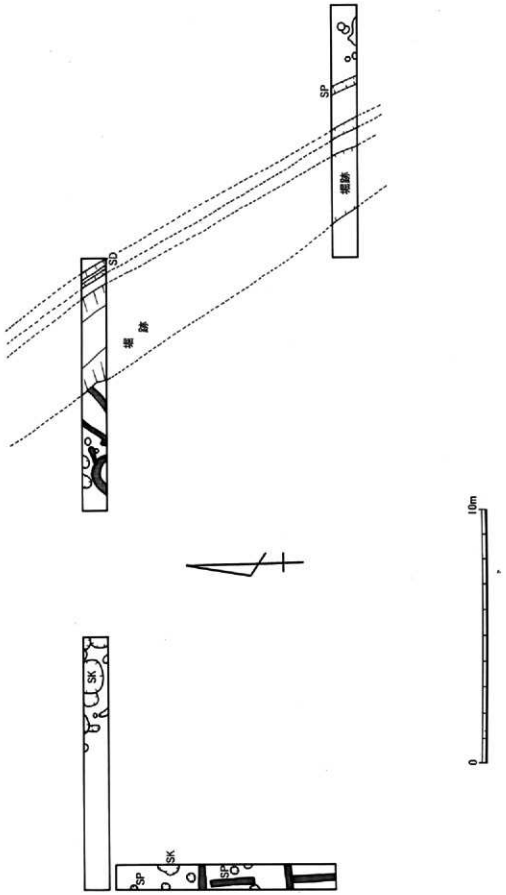
遺跡環境　遺跡はＪＲ米坂線今泉駅の南東1.3kmに位置し、丘陵斜面の端部に立地する。標高は214m前後を測り、地目は果樹園、宅地となっている。昨年度も部分的な試掘調査を行ったが、この部分では館に関係する遺構は確認できなかった。遺跡の主要部分が宅地となっていたこともあって、地権者の同意が得られず、事業実施年度の試掘調査となったものである。

試掘状況　手掘りのトレンチ調査を実施した。旧地権者の聞込みで区画する堀の存在する可能性のある地区を選択し、Ｔ１～４の４本試掘溝を設定して遺構確認面までの掘り下げを行い、一部精査も行った。

調査結果　Ｔ１で堀跡１条、これに平行して外側に存在する溝跡１条、柱穴等が検出され、Ｔ２の東半部で土坑、柱穴、Ｔ３で柱穴や落込み等を検出した。また、Ｔ４ではＴ１～連続するとみられる堀跡や溝跡等を検出した。出土した遺物は近世の陶磁器で中世に遡る遺物は確認されなかった。この結果を受けて平成９年の９月から10月にかけて川西町教育委員会が記録保存のための緊急発掘調査を実施した。



第76図　田制館跡概要図



第77図　田制館検出遺構平面図

遺跡近景（西から）

ＴＴＩ遺構検出状況（西から）

ＴＴＩ検出遺構掘り下げ（西から）

ＴＴＩ堀跡土層断面（南西から）

ＴＴＩ堀跡、溝跡（南東から）

図版84　田制館跡（１）

ＴＴ２全景（西から）

ＴＴ２東半部遺構検出状況（西から）

ＴＴ３遺構検出状況（南から）

ＴＴ４遺構検出状況（西から）

ＴＴ４西半部堀跡・溝跡検出状況（西から）

Ｔ４中央部溝跡検出状況（南西から）

ＴＴ４東半部柱穴等検出状況（南西から）

出土遺物

図版85　田制館跡（２）

(36)米沢城跡（遺跡番号1216）

所在地　山形県米沢市広幡町、丸の内一丁目２の68他

調査員　B調査　名和達朗　渋谷孝雄

調査期日　B調査　平成９年11月10日、12月８日

調査起因　県立米沢工業高等学校校舎解体工事

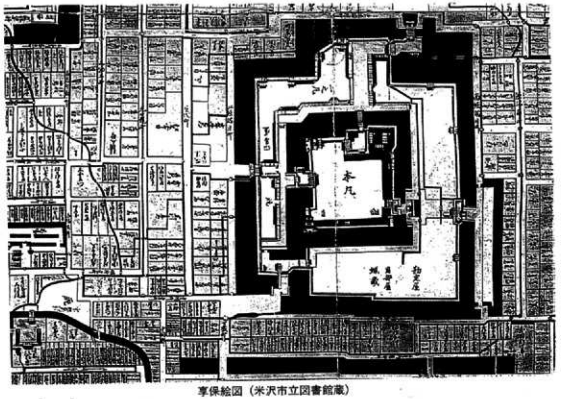
遺跡環境　米沢市街地のほぼ中央に位置する。国道121号線と主要地方道米沢・猪苗代線交差路の南西一帯が本丸、二の丸で、東西約600m・南北560m・面積336,000平米の広の規模であり、それを三の丸が区画する城構えである。享保年間絵図では学校敷地は、ほぼ二の丸区域に入ると考えられる。標高は、250m前後である。

試掘状況　事業区内について、絵図を参考に堀跡の広がりと方向性を基に、15ヶ所の地点にトレンチを入れ、重機使用で確認調査を行った。

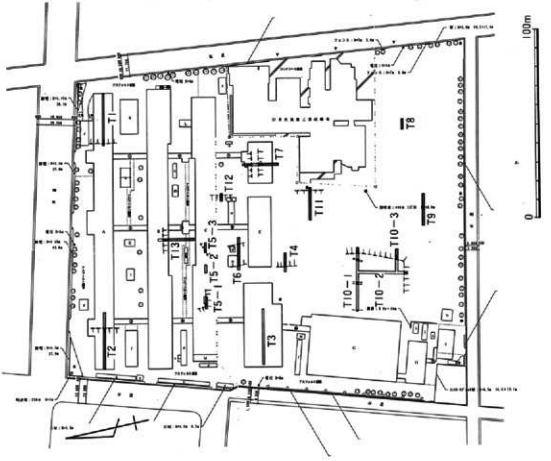
調査結果　各トレンチについて遺構及び堀跡ないし池跡の覆土が確認され、校舎基礎部分以外は遺構の遺存が確認できた。Ｔ１～13までの調査結果を総合すると、敷地北東～中央南側にかけて堀跡を想定する溝跡の広がりがみとめられた。Ｔ１、10、12は絵図の堀堀跡方向に概ね一致するが、Ｔ５－２・３、６では確認できず、一方Ｔ２では絵図にはない堀跡ないし池跡と考えられる遺構が確認された。絵図では学校敷地は本丸の南東に位置し、その大半が堀跡区域となっているが、今回の試掘結果は、その配置状況とは必ずしも一致しないことが明らかになった。

敷地中央区域北側～南西は、平坦な地山面の広がる範囲で柱穴、土壙、溝跡の遺構群の分布がみとめられ、堀跡に区画された城内遺構区域と考えられる。遺構確認面は、深さ70～130cmを測る。

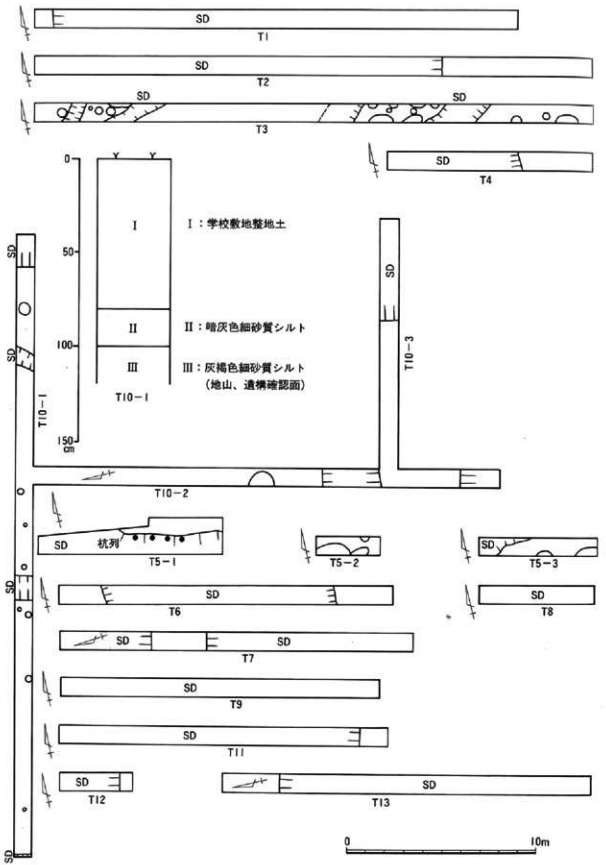
第78図　米沢城跡位置図



享保絵図（米沢市立図書館蔵）



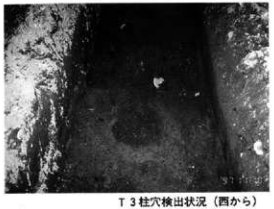
第79図　米沢城跡概要図



第80図　米沢城跡遺構平面図・断面略図

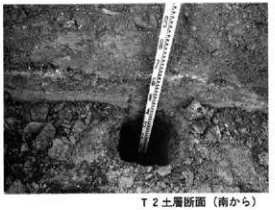
遺跡近景（南から）

T10－2調査状況（南から）

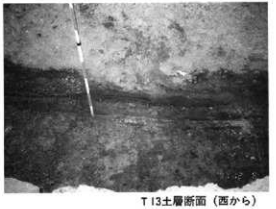

T3柱穴検出状況（西から）

T5－1遺構検出状況（東から）

T10－2遺構検出状況（南から）


T2土層断面（南から）

T10－1土層断面（南から）


T13土層断面（西から）

図版86　米沢城跡

(37)荒屋原遺跡山王地区（昭和58年度登録）

所在地　山形県天童市大字芳賀字山王

調査員　渋谷孝雄

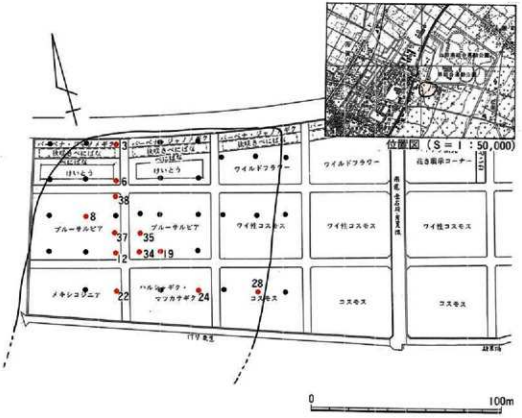
調査期日　平成9年11月4・5日

起因事業　総合交流拠点施設整備事業

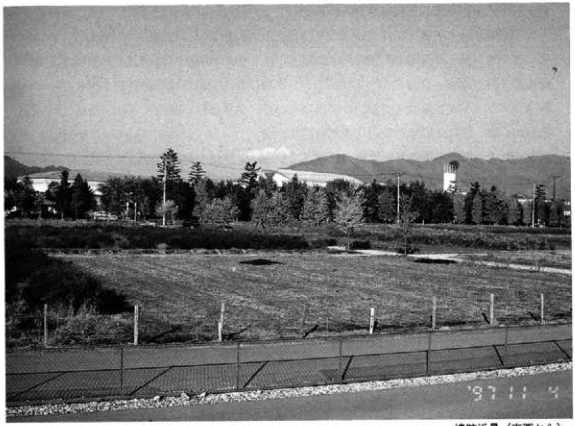
遺跡環境　遺跡は山形県総合運動公園に南接し、立谷川扇状地に立地する。標高123m前後を測り、平成4年度から山形県が経営する花き園として利用されている。昭和58年の山形県総合運動公園の建設に伴う遺跡詳細分布調査で発見・登録された遺跡で公園用地内の造成に伴う荒谷原遺跡群の発掘調査は昭和59年度に実施されたが、本地区の公園用地内は事前の試掘調査で分布状況が希薄であることから本調査対象とはならなかった。

試掘状況　1×1mの試掘坑を10～20mおきに試掘する坪掘り方式を取った。試掘坑は38箇所設定した。

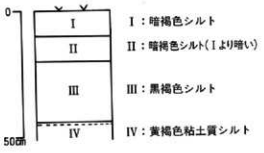
調査結果　試掘地区の中央部の12箇所で遺構や遺物が検出された。TP3、12で竪穴住居跡とみられる土色変化が確認され、TP6、19、28、34、37、38の各試掘坑で柱穴を検出した。確認面までの深さは44cmから63cmとなっている。出土した遺物は平安時代の須恵器、土師器、赤焼土器の破片であるがその量は少ない。遺物の散布状況から判断しても花き園敷地内での遺跡の東西の広がりは図示した範囲を越えないことは確実である。



第81図　荒谷原遺跡山王地区概要図



遺跡近景（南西から）



ＴＰ３土層柱状図

ＴＰ３土層断面（南から）

ＴＰ37柱穴検出状況（東から）

出土遺物

図版87　荒谷原遺跡山王地区（Ⅰ）

3　記録保存調査、立会い調査の概要

（1）家際（やざい）遺跡（平成７年度登録）

所在地　山形県酒田市大字保岡字家際

調査員　長橋　至

調査期日　平成９年８月４日　８月19日～21日　９月16日～18日

起因事業　県営ほ場整備事業（西荒瀬地区）

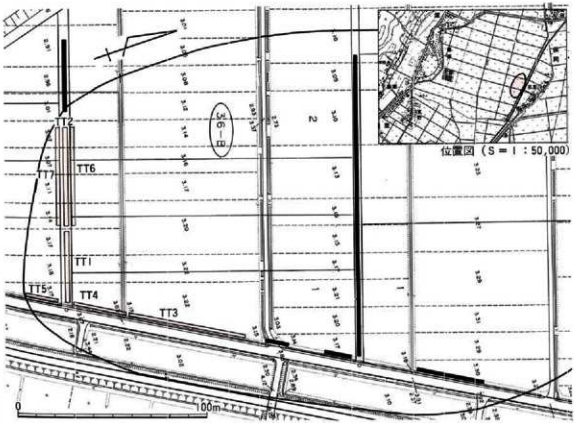
遺跡環境　酒田市街地から北東へ約３km、京屋地区西側の沖積平野の水田中に立地する。現地表の標高は３～3.2m、遺構確認面での標高は約2.5mを測る。北側３kmに日向川が西流する。周辺には、北側500mから１kmに平安時代の百野遺跡・蛙橋遺跡（平成７年度登録）が、南東 700mには中谷地遺跡（平成元年度登録）が所在している。現在の海岸線からは約３km内陸部に入る位置となる。

調査状況　遺跡範囲内で、ほ場整備により遺物包含層・遺構面に掘削が及ぶ部分について立会調査を実施した。水路・パイプライン敷設部分・農道路盤入替え部分を対象とした。工事工程により、調査は３期に分けて実施した。

調査結果　遺跡は南西部で良好な遺存状況を呈した。特に遺跡南部のＴＴ２・６・７域で集中して検出された。この地区の主な遺構の概要は以下のとおりである。ＴＴ２～ＳＫ１は径130cm、深さ25cmの土壙で遺物は出土しなかった。ＳＤ４は幅30cm、深さ20cm程の溝跡で赤焼土器の壺・高台付坏片を主体に１袋出土、ＳＫ８は長径130・短径110cmの略円形の土壙で覆土からはヘラ切りの須恵器坏片、回転糸切りの赤焼土器坏片の他、赤焼土器体部片等が１袋出土した。ＳＫ15は径約100cm、深さ50cm、遺物は糸切りの須恵器坏片の他、赤焼土器甕（刷毛目・タタキ等）、須恵器壺体部片などが１袋出土した（図38・35）。ＳＫ16は径90cm、深さ20cm、赤焼土器坏片、壺片、鍋口縁部片等が２袋出土した。ＳＤ17は幅50cm、深さ12cm程の溝跡で、図示した遺物（12・22）の他約１袋出土している。ＳＫ21は長径100・短径70cm、深さ18cmの小土壙で遺物は内面黒色処理の土師器坏片３点、体部下半タタキの壺片、須恵器壺体部片等約３袋が出土した（内図示７・13・32・34）。

ＴＴ７～ＳＫ60は径70cm、深さ10cmの小土壙で覆土は１層、回転糸切りの須恵器坏片が出土、ＳＤ62は長さ210cm、幅30cm、深さ10cmの短い溝状遺構で図示した高台付坏（３）の他、赤焼土器の壺体部片や赤褐色の須恵器（底部回転糸切り）等が１袋出土している。ＳＫ63は長径90cm、短径70cm、深さ12cmの小土壙で壙底に３cm程の炭化層が認められる。遺物は赤焼土器壺片等が数片出土した。ＳＫ65は調査区の関係で３分の１程の検出にとどまるが、推定径140cmを測る深さ16cmの土壙である。遺物は赤焼土器の壺片等数点が出土した。ＳＫ67も２分の１の検出となったが、一辺170cm、深さ22cmのやや大形の土壙で、覆土中より赤焼土器坏（図10）の他、赤焼土器壺片等約２袋が出土している。ＳＤ66では赤焼土器鍋（図39）が出土した。ＳＫ72は径140cm程の円形の土壙で、深さは18cmを測る。赤焼土器壺（図６）が出土した。ＴＴ４～検出した遺構は第85図に示した。各遺構から赤焼土器・須恵器片数点出土した。ＳＤ103出土遺物について図示（８・９）した。

遺物は、全体で整理箱10箱ほど出土した。今回は特徴的な遺物を選択し図示（第86・87図）した。須恵器は口径に比し底径が大きく底部が回転ヘラ切りのもの（1・2）、ヘラ切りの高台付坏（3）、糸切りの高台付坏（4）、底径の大きな回転糸切りの（5）、やや底径の小さい（6）、小さい底径から直線的に口縁部に立ち上がる（7）などに大別される。赤焼土器は、法量がやや大きく、底部（糸切り）から直線的に立ち上がる（8・9）、やや小ぶりで口縁部が外反気味の（10・11・17）、底径に比し器高の低い(12）に分けられる。なお、坏では内面黒色された土師器がSK21・69で数点出土している。墨書土器（4・14～18）については、判読可能なものを図示した。蓋はつまみが擬宝珠形の21、つまみ部遺存の22を図示した。皿は、23の1点のみ図示、須恵器壺・甕、赤焼土器の甕・鍋については、器形が判然とするものは少ない。今回の報告では大まかな時期を設定し、併せて、遺跡の性格を予見するにとどめる。上記の特徴から、古い時期のものとして1・2・21などは9世紀初頭（第1四半期）、5・6・8・9や赤焼土器の他の器種に代表される9世紀前葉～中葉の時期が想定される。その他、9世紀後半の要素の土器も散見される。土器から本遺跡の性格を予見すると、庄内平野北東部のこの時期については以前から出羽国府たる「井口国府」、「高敵の地」、「城輪柵跡」の関連が問題とされている。本遺跡は、極めて限定された区域の調査のためこの問題に言及する資料は乏しいが、井口国府成立から高敵の地への移転までの時期との整合性、標高3m以下（検出面）という遺跡の立地条件、城輪柵跡との位置関等の観点から注目しておくべき遺跡といえよう。

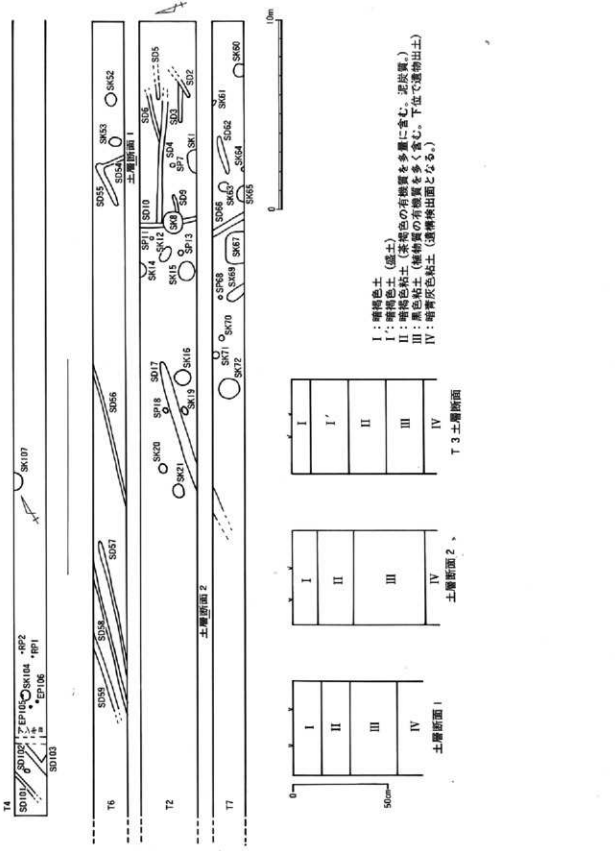


第82図　家際遺跡概要図

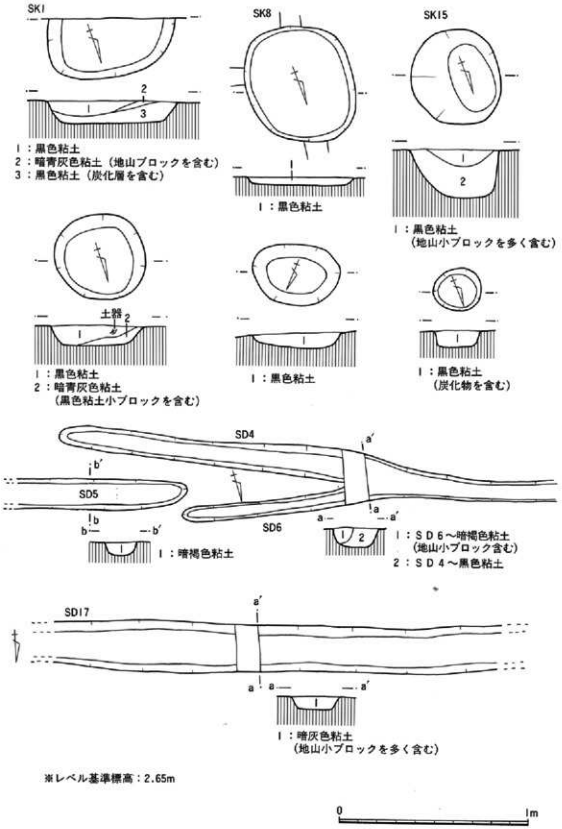
家原遺跡遺物観察表

挿図	番号	種別	器種	口径	底径	器高	底部切離	出土地点 試掘	出土地点 遺構等	備考
86	1	須恵器	坏	136	80	36	回転ヘラ	6	包含層	
	2	須恵器	坏	136	90	35	回転ヘラ	2	包含層	底部墨痕
	3	須恵器	高台付坏	136	80	36	回転糸	7	62	
	4	須恵器	高台付坏	124	68	47	回転糸	7	包含層	底部墨書（永）、内面墨付着
	5	須恵器	坏	134	78	41	回転糸	7	包含層	
	6	須恵器	坏	136	52	44	回転糸	7	72	
	7	須恵器	坏	134	52	47	回転糸	2	21	赤褐色
	8	赤焼土器	坏	140	61	59	回転糸	3	103	内面墨痕
	9	赤焼土器	坏	156	60	59	回転糸	3	103	
	10	赤焼土器	坏	128	50	51	回転糸	7	67	
	11	赤焼土器	坏	118	50	50	回転糸	2	包含層	
	12	赤焼土器	坏	130	54	46	回転糸	2	17	
	13	赤焼土器	坏	128	52	49	回転糸	2	21	
	14	須恵器	坏	—	50	・10	回転糸	7	包含層	底部墨書（伴）？
	15	須恵器	坏	—	60	・21	回転糸	2	包含層	底部墨書（才）？
	16	赤焼土器	坏	—	48	・33	回転糸	3	包含層	底部墨書（中）
	17	赤焼土器	坏	122	48	50	回転糸	2	包含層	体部墨書（金）？
	18	赤焼土器	坏	126	46	48	回転糸	7	70	体部墨書（大）
	19	須恵器	坏	—	—	—	回転糸	7	包含層	底部墨書（春？）
	20	須恵器	坏	—	—	—	回転糸	2	包含層	体部墨書（吉）？
87	21	須恵器	蓋	143	—	・27	ヘラ	4	包含層	つまみ部へ体部
	22	須恵器	蓋	・69	—	・17	ヘラ	2	17	つまみ部残存
	23	須恵器	皿	120	60	26	回転糸	2	包含層	
	24	須恵器	壷	130	—	・87	—	2	包含層	
	25	須恵器	甕	—	—	・68	—	4	包含層	
	26	須恵器	甕	—	—	・18	—	4	包含層	
	27	須恵器	甕	—	—	・10	—	2	14	頸部片
	28	須恵器	壷	—	54	・67	回転糸	4	包含層	ＲＰ２
	29	須恵器	壷	—	82	・19	回転糸	4	包含層	ＲＰ１
	30	赤焼土器	甕	140	—	・92	—	2	15	
	31	土師器	甕	209	—	・69	—	2	包含層	内外面刷毛目
	32	赤焼土器	甕	271	—	・13	—	2	21	
	33	赤焼土器	甕	200	—	・10	—	7	68	
	34	赤焼土器	甕	175	—	・10	—	2	21	
	35	赤焼土器	甕	223	—	・77	—	2	15	
	36	赤焼土器	甕	—	31	・23	—	2	包含層	藤機残存
	37	赤焼土器	鍋	—	—	・40	—	2	包含層	
	38	赤焼土器	鍋	—	—	・34	—	2	包含層	
	39	赤焼土器	鍋	—	—	63	—	7	66	
	40	赤焼土器	鍋	440	—	・70	—	7	包含層	内面タタキ

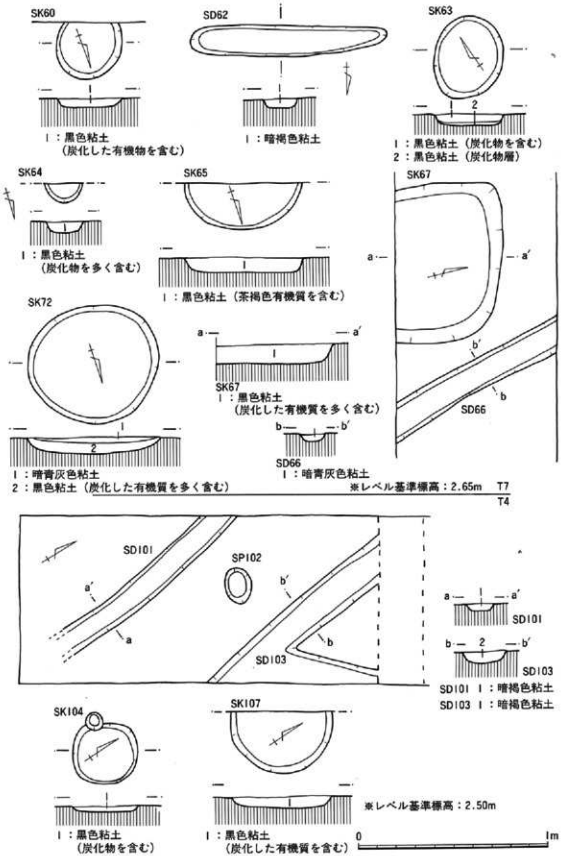
・現存値　（単位：ミリメートル）



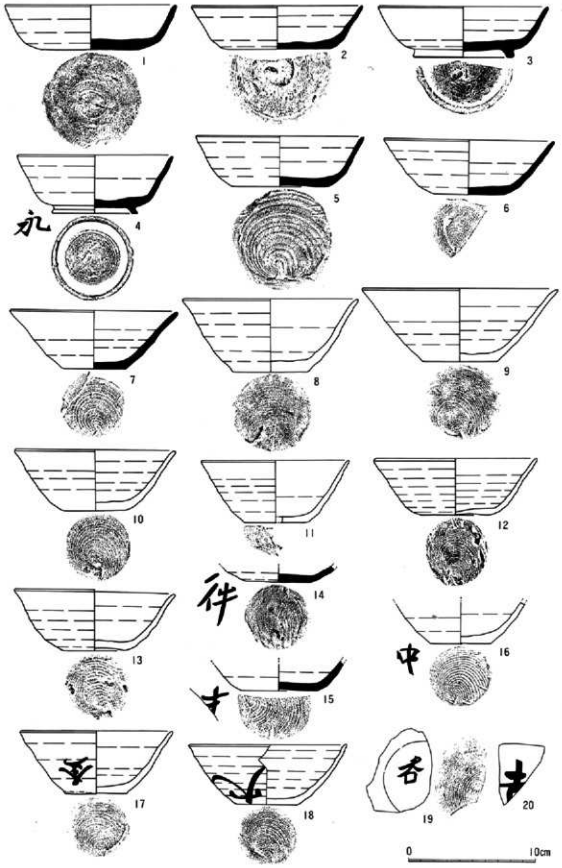
第83図　家原遺跡検出遺構



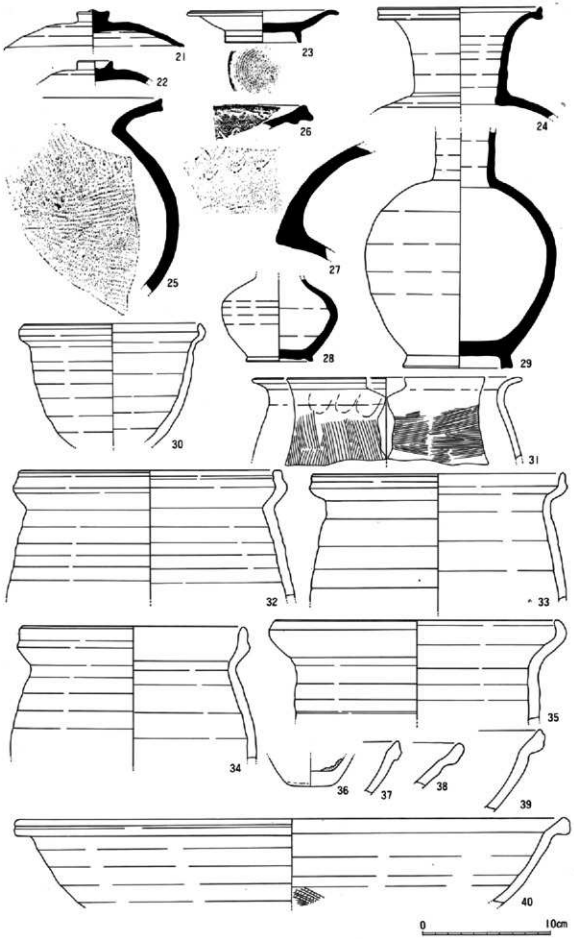
第84図　家際遺跡Ｔ２検出遺構平面・断面図



第85図　家際遺跡Ｔ７、Ｔ４検出遺構平面・断面図



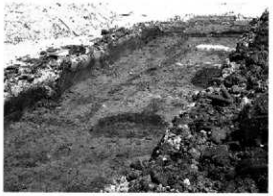
第86図　家際遺跡出土遺物実測図（1）



第87図　家際遺跡出土遺物実測図（2）

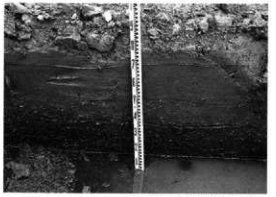
遺跡近景（ＴＴ１、東から）

ＴＴ２完掘状況（西から）


ＴＴ２東側遺構検出状況（西から）

ＴＴ２東側完掘状況（西から）

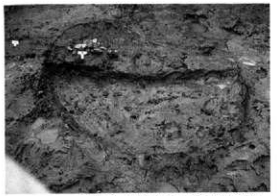
ＴＴ２　西側完掘状況（東から）


ＴＴ２土層断面（北から）

ＴＴ２　ＳＫ１土層断面（北から）

ＴＴ２　ＳＤ4.6（西から）

図版88　家隊遺跡（１）


ＴＴ２　ＳＫ８土層断面（東から）

ＴＴ２　ＳＫ８完掘状況（東から）

ＴＴ２　ＳＫ12土層断面（北から）

ＴＴ２　ＳＫ13土層断面（北から）

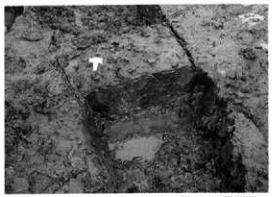
ＴＴ２　ＳＫ15土層断面（北から）

ＴＴ２　ＳＫ15完掘状況（北から）

ＴＴ２　ＳＫ16土層断面（北から）

ＴＴ２　ＳＫ16完掘状況（北から）

図版89　家隊遺跡（２）

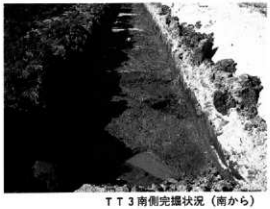


TT2　SD17土層断面

TT2　SK20土層断面（北から）

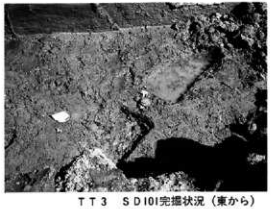
TT2　SK20完掘状況（北から）

TT2　SK21土層断面（北から）



TT3南側完掘状況（南から）

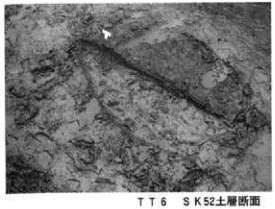
TT3　RP1.2出土状況（東から）



TT3　SD101完掘状況（東から）

TT3　SD103完掘状況（東から）

図版90　家際遺跡（3）



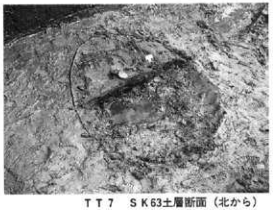
TT6　SK52土層断面

TT6　SD57～59完掘状況（西から）

TT6　SK53土層断面（東から）

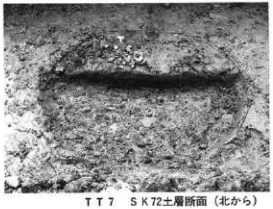
TT7完掘状況（西から）

TT7　SK60土層断面（北から）



TT7　SK63土層断面（北から）

TT7　SK67土層断面（東から）



TT7　SK72土層断面（北から）

図版91　家際遺跡（4）

86－1

86－2

86－3

86－4

86－5

86－4（たて）

86－10

86－12

図版92　家際遺跡（5）

86－13

86－14

86－15

86－16

86－17

86－18

86－19

86－20

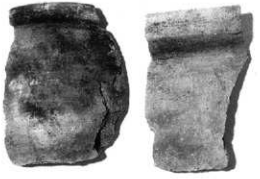
図版93　家際遺跡（6）

87－22

87－23

87－28

87－29（約¼）



㊨87－30　㊧87－34

87－31

87－32

87－33（約⅔）

図版94　家際遺跡（７）

87－35（½）

87－36（½）

須恵器甕（½）

須恵器甕（½）

赤焼土器甕

砥石

木製品（½）

同左裏面（½）

図版95　家際遺跡（８）

（2）**飯沢館跡**（いいざわだて）（平成６年度登録）

所在地　山形県長井市大字成田字館の内

調査員　渋谷孝雄

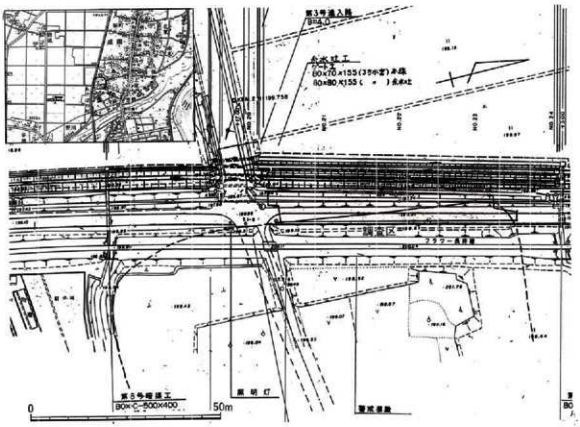
調査期日　発掘調査　平成９年６月10～13日（４日間）

起因事業　ふるさと農道緊急整備事業（成田西部地区）

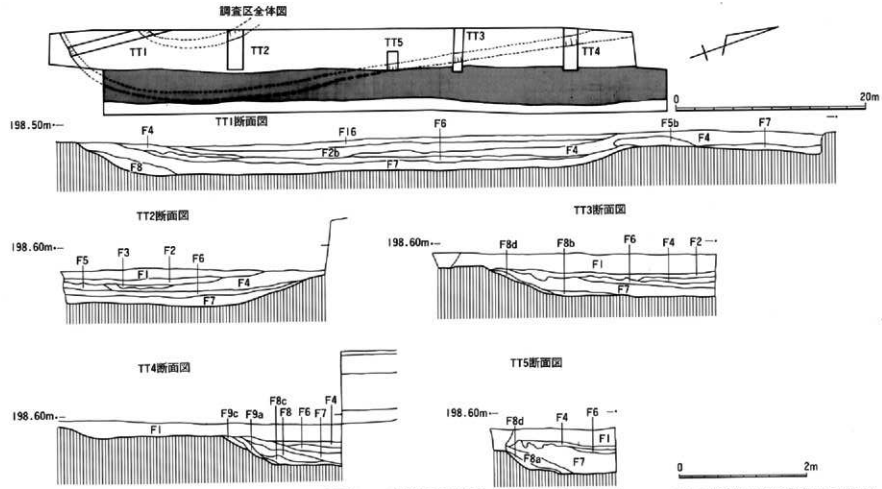
遺跡環境　山形鉄道フラワー長井線羽前成田駅の南方900mに位置する。標高は198m前後で地目は宅地、畑地、水田、鉄道用地、道路用地となっている。飯沢館は鮎貝氏の家臣である飯沢氏の居館で５反４畝３歩の面積を持つ。長井線の建設に伴い堀の一部が破壊され、その後も土塁は切り崩されて現在は北東隅に残存するだけとなっている。

調査状況　今回の調査対象区は館の西辺の堀の一部が入るものと考えられたため、現道部分を含めて、重機で表土を除去し、面削りで堀跡の確認を行った。工事は堀を確認した面以下には及ばないため、堀の掘り下げはＴＴ１～５のトレンチ調査とした。

調査結果　西辺の堀跡は当初予測より西側に広がっており、昭和40年代の土地改良事業の排水路設置で北西隅が既に破壊されていた。また、ＴＴ１、ＴＴ２で一旦立ち上がる様相を示しており、線路東の堀跡の痕跡から判断すると２重の堀となっていたものと考えることができる。外側の堀の幅は上幅で10m前後となり、確認面からの深さは50cm前後となる。堀の堆積土はグライ化したシルトないしは砂質シルトや未分解腐植質となっていた。堀の堆積土から珠洲系の中世陶器と漆器が各１点出土した。



第88図　飯沢館跡概要図



F 1：暗褐色シルト
F1b：暗青灰色粗砂
F 2：暗青灰色礫混りシルト
F2b：暗青灰色、明青灰色シルトが斑状に混る(炭化物、礫を若干含む)
F 3：黒褐色シルト混り未分解腐植質
F 4：暗青灰色レキ含み砂質シルト
F 5：明青灰色砂質シルト(炭化物、小礫を若干含む)
F5b：褐色礫混り粘土質シルト
F 6：明青灰色砂質シルト
F 7：茶褐色砂含み未分解腐植質
F 8：褐暗青灰色シルト(茶褐色未分解腐植質含む)
F8b：褐暗青灰色砂混り砂質シルト(F7のブロックを含む)
F8c：暗褐色砂質シルト(青灰色粗砂の大ブロックを含む)
F8d：明青灰色砂質シルト
F 9：灰褐色粗砂(F7のブロックを含む)
F9b：灰褐色砂礫(F7のブロックを含む)
F9c：暗青灰色シルト質砂(F7のブロックを含む)

第89図　飯沢館跡堀跡平面・断面図

飯沢館跡近景（西から）

調査区近景（南から）

調査区面整理終了（南から）

堀跡・北西隅検出状況（西から）

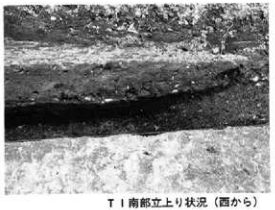
堀跡・北西隅検出状況（北西から）

堀跡中世陶器出土状況（南から）

Ｔ１土層断面（北西から）

Ｔ１北部立上り状況（西から）

図版96　飯沢館跡（１）

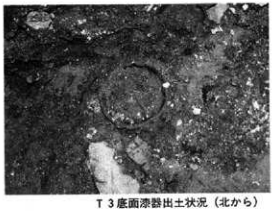


Ｔ１南部立上り状況（西から）

Ｔ２土層断面（南西から）

Ｔ３土層断面（南西から）

Ｔ３東部土層断面（南から）



Ｔ３底面漆器出土状況（北から）

Ｔ４土層断面（南から）

出土遺物（中世陶器）

出土遺物（漆器）（½）

図版97　飯沢館跡（２）

（3）飯沢北館跡（いいざわきただて）（平成６年度登録）

所 在 地 山形県長井市大字成田字北館

調 査 員 渋谷孝雄

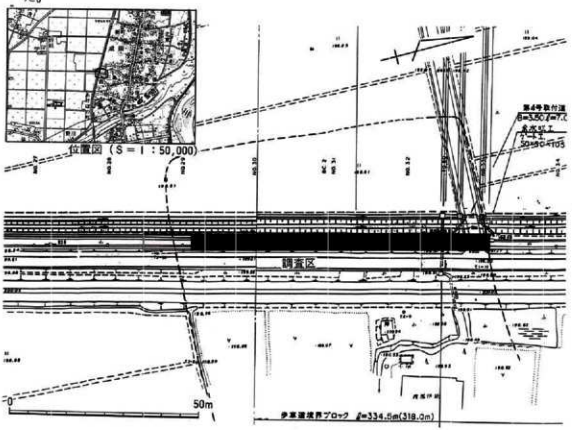
調査期日 発掘調査　平成９年２月18～20日（３日間）

起因事業 ふるさと農道緊急整備事業（成田西部地区）

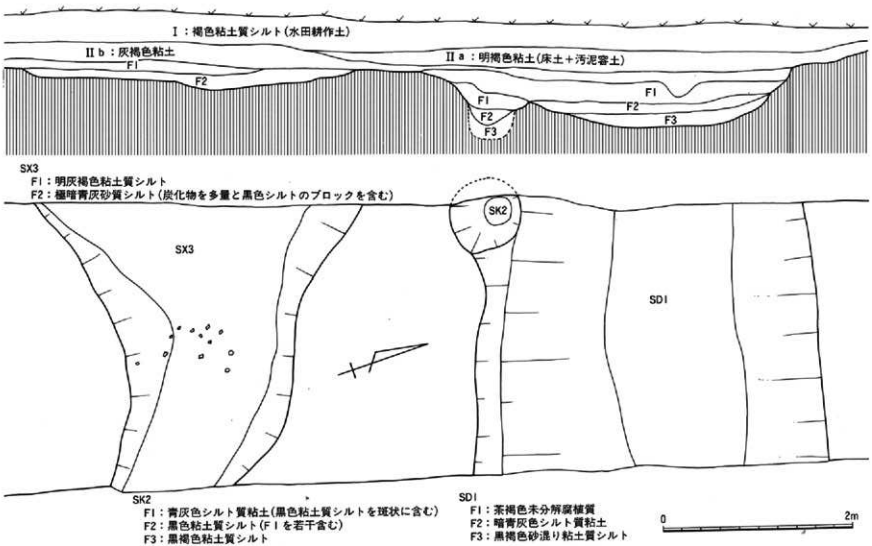
遺跡環境 山形鉄道フラワー長井線羽前成田駅の南方700m、飯沢館の北200mに位置する。標高は199m前後で地目は宅地、畑地、水田、鉄道用地、道路用地となっている。飯沢北館は飯沢氏の庶流が天文年間の初期に独立して築いたといわれている。地籍図によると４反２畝の面積を持つ方形館である。館の中央部に長井線が建設されている。長井線の東側に一部土塁の痕跡が残っている。

調査状況 今回の調査対象区は、館の内部にあたり、北辺、南辺の堀跡のほか、建物跡などの遺構が存在する可能性もあったため、拡幅部分の表土を重機で除去し、面削りで遺構の有無を検出する方法を取った。なお、現道部分の工事は遺構確認面より上位で終るため調査を実施していない。

調査結果 北辺の堀に当たる部分は過去の工事で破壊されており、館の内部でも遺構は確認できなかった。しかし、上幅で3.6m、確認面からの深さ60cmを測る南辺の堀と考えられる遺構（ＳＤ１）が検出され、さらにこの南側に、平安時代の土器を含む浅い落込み（ＳＸ３）も検出され、ＳＤ１に切られる縄文時代後期前半の土坑（ＳＫ２）も検出された。



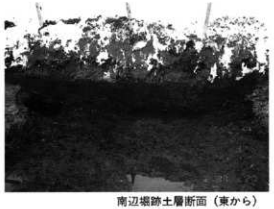
第90図　飯沢北館跡概要図


Ⅰ：褐色粘土質シルト（水田耕作土）
Ⅱb：灰褐色粘土
Ⅱa：明褐色粘土（床土＋汚泥客土）
F1
F2
F3
SX3
F1：明灰褐色粘土質シルト
F2：極暗青灰砂質シルト（炭化物を多量と黒色シルトのブロックを含む）
SK2
SD1
SK2
F1：青灰色シルト質粘土（黒色粘土質シルトを斑状に含む）
F2：黒色粘土質シルト（F1を若干含む）
F3：黒褐色粘土質シルト
SD1
F1：茶褐色未分解腐植質
F2：暗青灰色シルト質粘土
F3：黒褐色砂混り粘土質シルト
0
2m

調査区近景（北から）

推定北辺堀跡・付近撹乱部（北から）

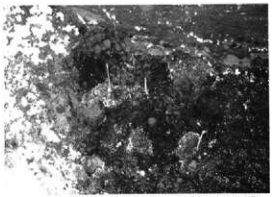
南辺堀跡検出状況（南西から）


南辺堀跡土層断面（東から）

南辺堀跡調査状況（南東から）

図版98　飯沢北館跡（１）

南辺堀跡南部の縄文時代土坑検出状況（北東から）


縄文時代土坑土器出土状況（東から）

南辺堀跡土層断面（東から）

縄文時代土坑完掘・土層断面（東から）

出土遺物

図版99　飯沢北館跡（２）

(4)古屋敷(ふるやしき)遺跡（遺跡番号2,163）

所在地　山形県飽海郡遊佐町大字吉出字古屋敷

調査員　渋谷孝雄

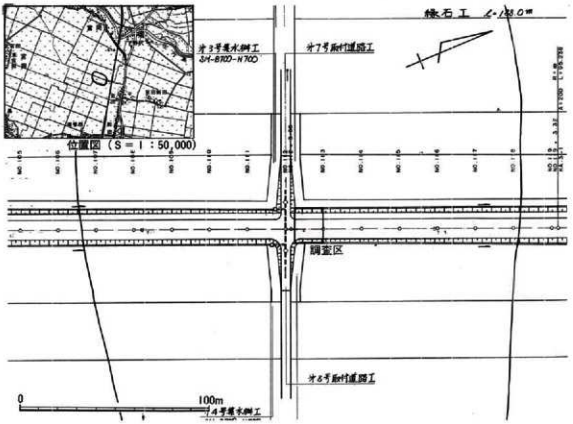
調査期日　発掘調査　平成９年10月８・９日（２日間）

起因事業　国道345号線道路改築

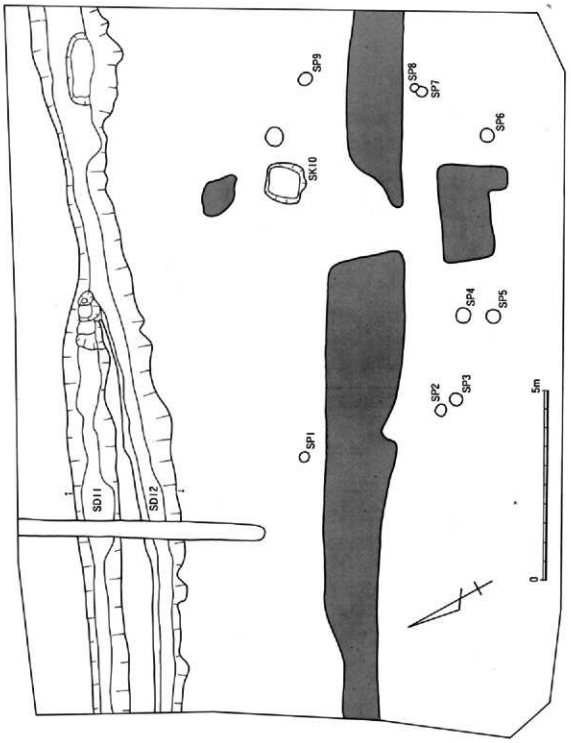
遺跡環境　ＪＲ羽越本線遊佐駅から北に約1.3kmに位置し、月光川と高瀬川に挟まれた沖積平野に立地する。地目は水田で標高は９ｍを測る。平成６年度に県営ほ場整備事業に伴い、今回の調査対象区の南側の農道等の発掘調査を行い、中世の竪穴や掘立柱建物跡が検出されている。

調査状況　今回の調査対象区は、昨年の試掘調査で絞り込んだ東西18m、南北15mの範囲でこの部分の表土を除去した後に、面削りで遺構の検出作業を行い、検出した遺構の精査と記録を行った。

調査結果　土坑１基、溝跡２条、小規模な掘り方と考えられるピットを９基を検出した。ＳＫ10は東西、南北とも約１ｍを測る方形プランの土坑で確認面からの深さは85cmを測る。覆土は９層に分かれ、９層から漆器、箸、板状の木製品、珠洲系の中世陶器等が出土した。ＳＤ11、12は東西の走行をもつ溝跡で12が11を切る。11は中世、12は近、現代の所産である。９基検出されたピットはいずれも小規模である。平成６年度の調査で今回の調査区に掘立柱建物跡の柱列が延びているものと考えられたが、その存在は確認できなかった。



第92図　古屋敷遺跡概要図



第93図　古屋敷遺跡調査区遺構分布図

前述したようにＳＫ９の最下層の９層から多数の木製品と中世陶器、金属製品が出土している。その主要なものを第95図及び図版104、105に示した。

陶器では天目茶碗１点、珠洲系中世陶器の擂鉢の体部破片が２点、甕の体部破片が１点出土した。天目茶碗は16世紀代の所産とみられる。

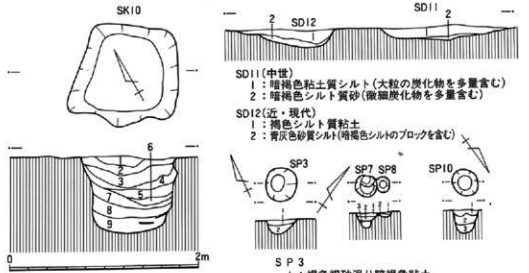
箸は破損品を含めると41点が出土した。そのうち完形品10点を図示した。長さ18～21cmで、径が５～７㎜を測る。

漆器は図示した５点の他、数点の残片がある。11は口径97㎜、底径63㎜、器高18㎜を測る小形の皿で内外面とも黒漆の精巧な作りとなっている。12、13は内面赤漆、外面が黒漆の椀である。14は外面に黒漆が施されているが内面はロクロ痕の凹凸が明瞭に残る椀である。15は内外面とも黒漆が施され、底部外面に丸印の刻印が３個認められる

板状の木製品は13枚が出土した。16は楕円形の板状の木製品で２箇所に穿孔がある。17から19は長方形となる柾目の板状の木製品である。長さ26～28cm、幅12～13cm、厚さ７～８㎜を測り、角を面取りしたものが多いが、20のように短辺の一端を２段に加工したものも存在する。

曲物の断片は直径13cm前後とみられ、桜皮で閉じた部分は３枚重ねとなっている。残存する高さは３㎝である。

金属製品では長さ27cm前後、径４㎜前後で先端が尖がり、基部側の断面形が四角形となる用途不明のもの２点の他、図示しなかったが「咸元淳寶」が１点出土している。



SD11(中世)
1：暗褐色粘土質シルト(大粒の炭化物を多量含む)
2：暗褐色シルト質砂(微細炭化物を多量含む)

SD12(近・現代)
1：褐色シルト質粘土
2：青灰色砂質シルト(暗褐色シルトのブロックを含む)

SK10
1：褐色粘土質シルト
2：黒色未分解腐植質混り暗褐色砂質シルト
3：黒色シルト(未分解腐植、もみがらを多量含む)
4：青灰色シルト混り暗褐色粘土質シルト
5：黒褐色粘土質シルト
6：暗褐色砂質シルト
7：暗褐色粘土質シルト
8：極暗青灰色粘土質シルト　}板状木製品を含む
9：暗青灰色粘土質シルト

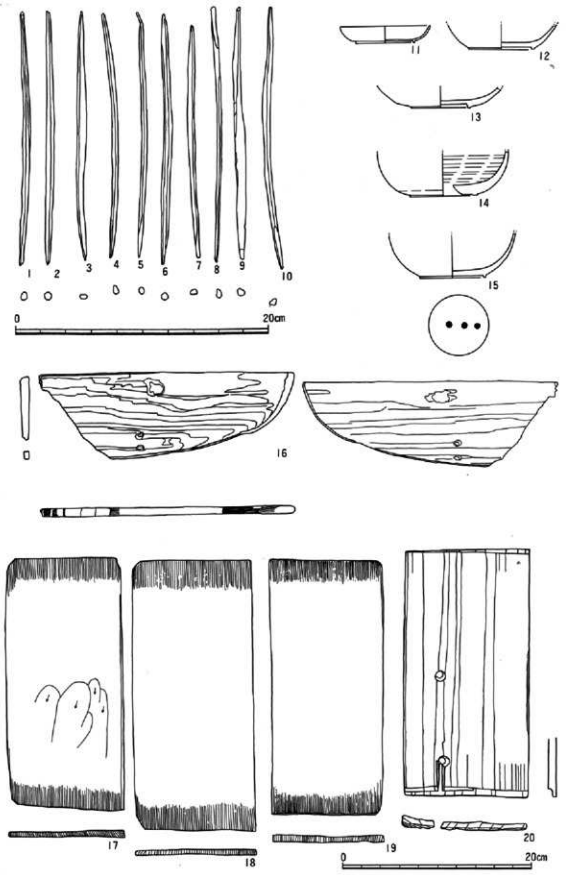
SP3
1：褐色粗砂混り暗褐色粘土
2：灰褐色粗砂混り黒褐色粘土質シルト

SP7
1：褐色細砂混り暗褐色粘土質シルト
2：暗褐色粘土混り褐色砂
3：褐色砂混り黒褐色粘土質シルト

SP8
1：暗褐色粘土質シルト
2：明褐色砂混り暗褐色シルト質粘土

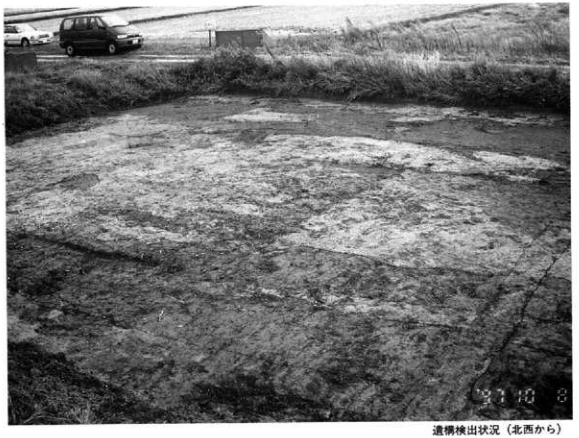
SP9
1：明灰褐色シルト混り暗褐色粘土質シルト
2：暗青灰色シルト混り暗褐色粘土質シルト
3：暗褐色粘土質シルト混り青灰色砂質シルト

第94図　古屋敷遺跡検出遺構平面・断面図



第95図　古屋敷遺跡出土遺物実測図

調査区近景（南西から）

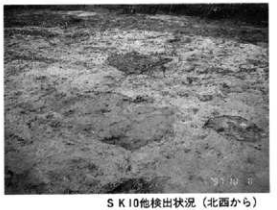


遺構検出状況（北西から）

図版100　古屋敷遺跡（1）

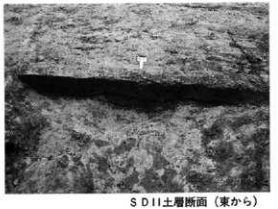
東半部遺構検出状況（北西から）

SD11、12等検出状況（北から）



SK10他検出状況（北西から）

柱穴群検出状況（南西から）



SD11土層断面（東から）

SD12土層断面（東から）

SD11、12完掘（東から）

SD11、12完掘（西から）

図版101　古屋敷遺跡（2）

ＳＫ10土層断面（南から）

ＳＫ10完掘（南から）

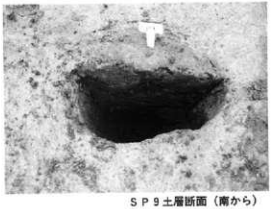
遺構精査状況（北西から）

ＳＰ１土層断面（北から）

ＳＰ２土層断面（北から）

ＳＰ３土層断面（北から）

ＳＰ７、８土層断面（南東から）



ＳＰ９土層断面（南から）

図版102　古屋敷遺跡（３）

完掘状況（南西から）

完掘状況（南東から）

図版103　古屋敷遺跡（４）

天目茶碗（表）

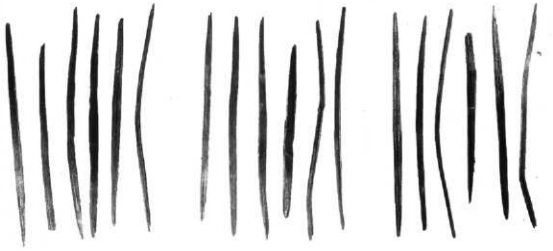
天目茶碗（裏）

中世陶器（表）

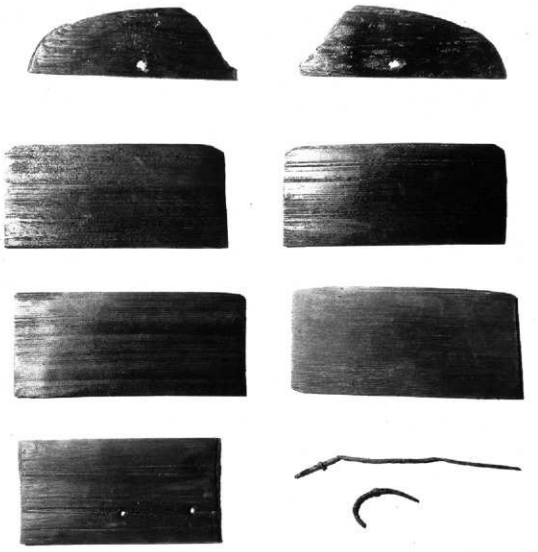
中世陶器（裏）

漆器皿、椀、曲物（½）
出土遺物（1）

図版104　古屋敷遺跡（5）



箸（½）



板状木製品他（½）
出土遺物（2）

図版105　古屋敷遺跡（6）

（5）欠の上遺跡（遺跡番号1,920）

所在地　山形県東田川郡朝日村大字本郷字欠の上

調査員　渋谷孝雄

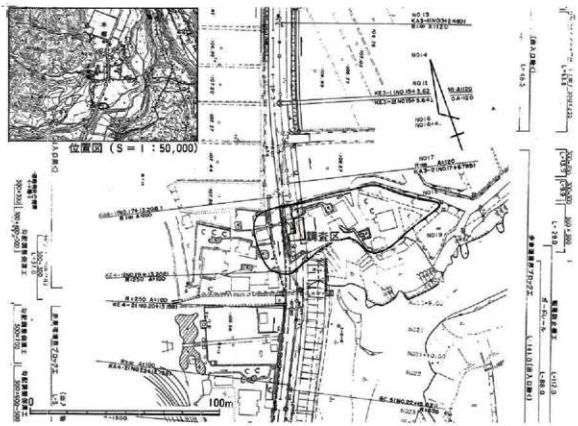
調査期日　発掘調査　平成9年5月27日～6月3日（6日間）

起因事業　主要地方道余目温海線緊急地方道整備工事

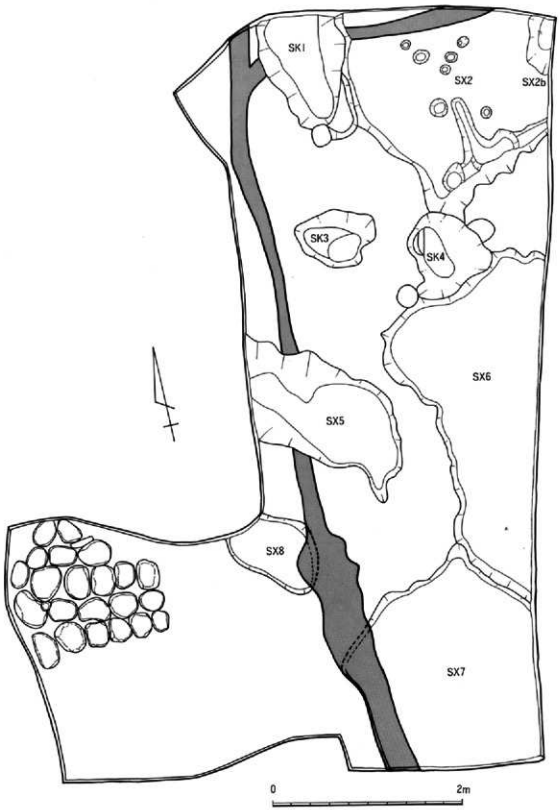
遺跡環境　朝日町役場の南方約2.4kmに位置し、大鳥川左岸の段丘上に立地する。地目は宅地、畑地で標高は106mを測る。遺跡の南方約1.5kmには縄文時代中期末から晩期までの集落跡である砂川A遺跡があり、ほ場整備事業に伴って昭和56年に朝日村教育委員会によって発掘調査が行われている。

調査状況　今回の調査対象区は、事業地区内の内、昨年の試掘調査で包含層が残っていると判断された難波氏の家屋の跡で周囲は池等で既に破壊されていたため、対象区から除外した。調査区の大きさは東西約6.5m、南北16mで南側で5×5mの張り出し部を持つL字形の約130m²である。調査はこの部分の表土を除去した後に、包含層を掘り下げながら面削りで遺構の検出作業を行い、検出した遺構の精査と記録を行い、出土した遺物の取り上げを行った。

調査結果　縄文時代の土坑4基、落込み4基と、近世ないしは近代の敷石遺構1基を検出した。包含層であるII層と遺構内から整理箱で7箱分の縄文土器や石器などが出土した。また、敷石遺構内からは幕末以降の磁器等が出土した。



第96図　欠の上遺跡概要図



第97図　欠の上遺跡遺構分布図

以下に検出した遺構と遺物についてその概要を述べる。

ＳＫ１

調査区の北西隅で検出したこの土坑の北部は池で破壊されている。南北200cm以上、東西は最大で140cmを測る楕円形プランの土坑で南東部が一段浅い。検出面からの底面までの深さは最大で68cmである。遺構内堆積土は３層に分かれ、１層下部から３層にかけて集中して土器が出土した。土器は後期前半の堀之内１式、中葉の加曽利Ｂ式、後葉の瘤付土器が同じ層位で出土している。他に磨石３点も出土している。

ＳＫ２ｂ

調査区の北東隅でＳＸ２を切って検出された。南北90cm以上の恐らく楕円形プランであり、確認面からの深さは50cmである。縄文地文の土器片２点と、撚糸地文の土器片が１点、磨石１点が出土している。

ＳＫ３

調査区の北部で検出された。東西130cm、南北90cmの不整楕円形のプランをもち、鍋底状の底面となる。確認面からの深さは35cmで堆積土は３層に分かれる。ポリ袋で１袋分の土器片が出土しているが、時期の判る土器はなかったが石鏃が出土している。

ＳＫ４

ＳＫ３の東側で検出された。ＳＸ２、６を切っている。東西110cm、南北130cmの不整円形のプランで底面は平坦な長楕円形となる。確認面からの深さは40cmで堆積土は３層に分かれる。後期中葉の加曽利Ｂ式併行の土器が出土している。

ＳＸ２

調査区の北東隅で検出した大きな落込み。竪穴住居の可能性も否定できないが床面が明瞭ではなく、底面で検出された溝やピットは、落込みを切っているため、周溝や柱穴にはならない。堆積土は２層に分かれ後期中葉の加曽利Ｂ式に併行する土器が出土している。なお、ＳＸ２を切る溝の堆積土から甕の体部下半が出土している。

ＳＸ５

調査区の中央部西で検出した東西180cm以上、南北100cm以上の不整形な落込みである。横断面はボウル状となり、確認面からの深さは51cmである。後期初頭の宮戸１ｂ式併行の土器、磨石１点が出土している。

ＳＸ６

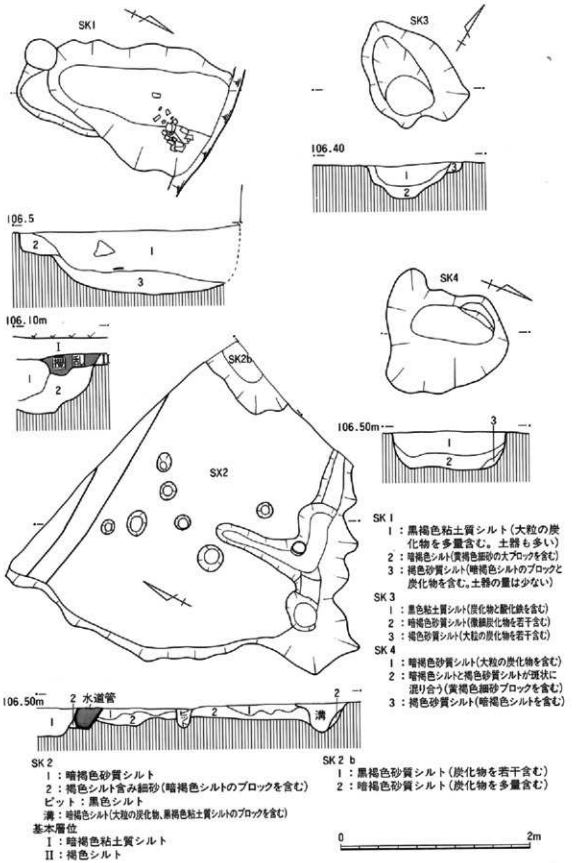
調査区中央東で検出した南北約350cmの落込み。東半部は調査区外となっている。後期初頭の土器が出土している。

ＳＸ７

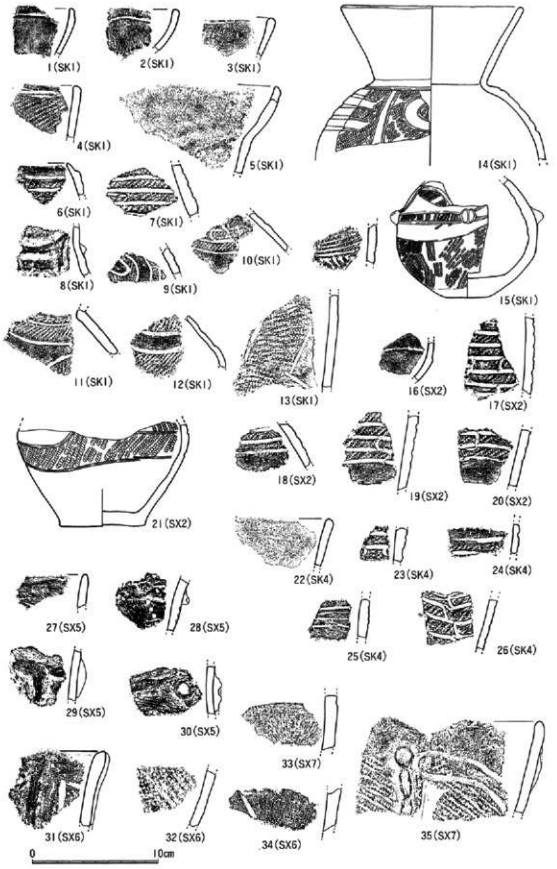
調査区の南東で検出した落込み。底面に凹凸がある。後期初頭の宮戸１ｂ式併行の土器が出土している。

ＳＸ８

ＳＸ７の北西で検出した落込み。文様のある土器は出土していない。



第98図　欠の上遺跡検出遺構平面・断面図



第99図　欠の上遺跡出土遺物実測図・拓影図

調査区近景（南から）

掘り下げ状況（北東から）

図版106　欠の上遺跡（1）

遺構検出作業状況（南西から）

遺構検出状況（南西から）

図版107　欠の上遺跡（2）

遺構検出状況（北から）

遺構検出状況（南から）

図版108　欠の上遺跡（3）

ＳＫＩ内縄文土器出土状況（北西から）

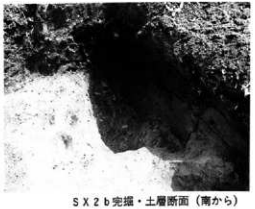
ＳＫＩ土層断面（北東から）

ＳＫＩ完掘（北東から）

ＳＫＩ完掘（南から）

ＳＸ２内縄文土器出土状況（西から）

ＳＸ２土層断面（南西から）



ＳＸ２ｂ完掘・土層断面（南から）

ＳＫ２完掘（南西から）

図版109　欠の上遺跡（４）

ＳＫ３土層断面（南から）

ＳＫ３完掘（北東から）

ＳＫ４土層断面（東から）

ＳＫ４完掘（東から）

ＳＸ５土層断面（南東から）

ＳＸ５完掘（東から）

ＳＸ６完掘（南から）

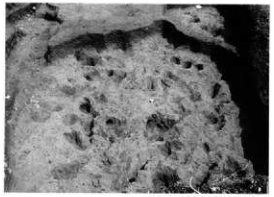
ＳＸ６、７他調査状況（南から）

図版110　欠の上遺跡（５）

ＳＸ７検出状況（西から）

ＳＸ７縄文土器出土状況（北から）

ＳＸ７土層断面（西から）



ＳＸ７完掘（南から）

石組遺構精査状況（西から）

図版111　欠の上遺跡（６）

調査区完掘状況（南西から）

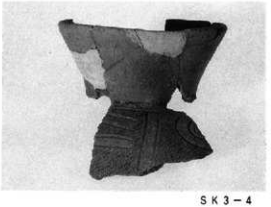
調査区完掘状況（北から）

図版112　欠の上遺跡（７）

SK1－1

SK1－2

SK1－3



SK3－4

SK3－5

SX2

SK4

SX5
出土遺物（1）

図版113　欠の上遺跡（8）

SX6

SX7

II層

円盤状土製品

打製石器

磨石

凹石－1

凹石－2
出土遺物（2）

図版114　欠の上遺跡（9）

（6）下柳（しもやなぎ）A遺跡（遺跡番号152）

所在地　山形県山形市大字青柳字上柳

調査員　渋谷孝雄

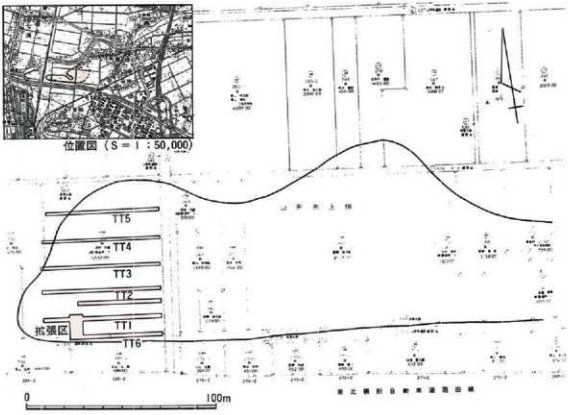
調査期日　B調査　平成9年9月29、30日　発掘調査　平成9年10月7日

起因事業　健康の森公園整備事業

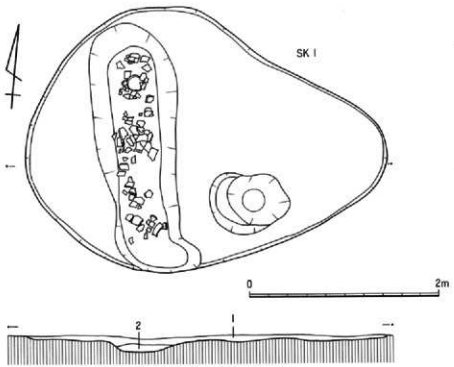
遺跡環境　JR奥羽本線羽前千歳駅の北北東約1kmに位置し、高瀬川左岸の自然堤防に立地する。平成7年度に県立保険医療短期大学の建設に伴う発掘調査が行われ、古墳時代中期の集落が検出されている。

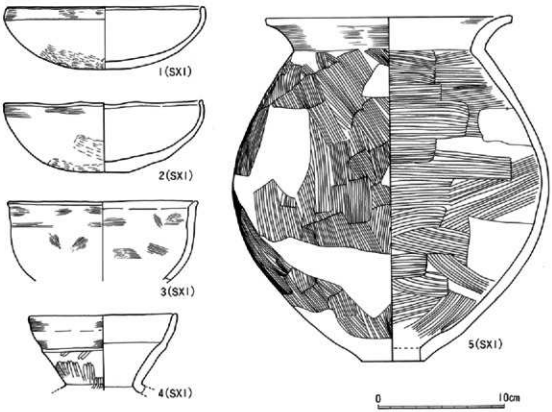
調査状況　調査対象地区は、遺跡の西端にあたり、平成6年度に坪掘り調査を実施しており、若干の土師器が出土していた。今回、公園の造成計画が明らかとなったため、それとも調整のためにトレンチ方式の試掘調査を行ったが、南部のT1とT2で遺構が2箇所で検出されただけで、他のトレンチでは摩滅した土師器が出土するものの、遺構の分布域からは外れていると判断された。遺構検出地点の内1箇所で精査を行ったものである。なお、T6の東半部の調査は平成10年度に予定している。

調査結果　浅い土坑が1基検出された。東西364cm、南北262cmの西洋梨形のプランで中央部に一段深い南北に走る溝状の落込みがあり、この中から土師器が集中して出土した。坏、高坏、坩、甕などがあり、接合の結果、全体を知ることができるまでに復元できたものもあった。古墳時代中期南小泉式の古い段階のものとみられる。



第100図　下柳A遺跡概要図





第101図　下柳A遺跡検出遺構平面・断面図、出土遺物実測図

ＴＴ１全景（西から）

ＴＴ２全景（西から）

ＴＴ３全景（西から）

ＴＴ４全景（東から）

ＴＴ５全景（東から）

ＴＴ５土層断面（南から）

ＴＴ６全景（西から）

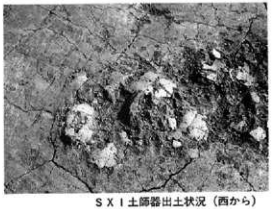
ＴＴ６東端遺構検出状況（東から）

図版115　下柳Ａ遺跡（１）

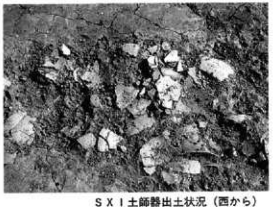
ＳＸＩ全景（南西から）

ＴＴＩ拡張区ＳＸＩ検出状況（南西から）

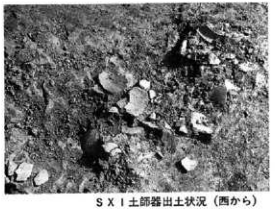
ＴＴＩ拡張区ＳＸＩ検出状況（北西から）



ＳＸＩ土師器出土状況（西から）



ＳＸＩ土師器出土状況（西から）



ＳＸＩ土師器出土状況（西から）

ＳＸＩ土層断面（南東から）

ＳＸＩ全景（南東から）

図版116　下柳Ａ遺跡（２）

SXI出土坏1（½）

SXI出土坏2（½）

SXI出土坏3（½）

SXI出土坩（½）

SXI出土甕（½）
出土土器

図版117　下柳A遺跡（3）

（7）北柳（きたやなぎ）2遺跡（平成7年度登録）

所在地　山形県山形市大字青柳字北柳

調査員　渋谷孝雄

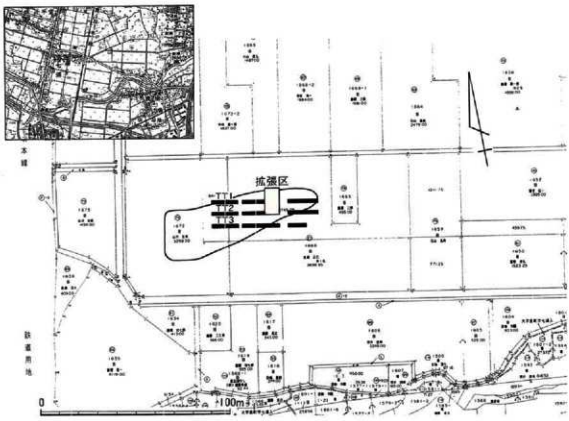
調査期日　B調査　平成9年10月6、7日　発掘調査　平成9年12月8・9日

起因事業　県立中央病院移転整備事業

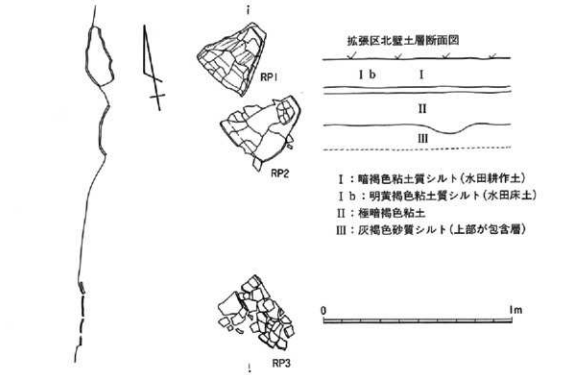
遺跡環境　JR奥羽本線南出羽駅の南約400mに位置し、高瀬川右岸の自然堤防に立地する。平成7年度の試掘調査で南北トレンチの3本から縄文時代末から弥生時代中期にかけての土器が出土したため、東西80m、南北20mの範囲を北柳2遺跡として登録した。平成8年度に健康の森公園整備に伴って、その南東部の発掘調査が行われたが、みるべき遺構、遺物は検出されなかった。

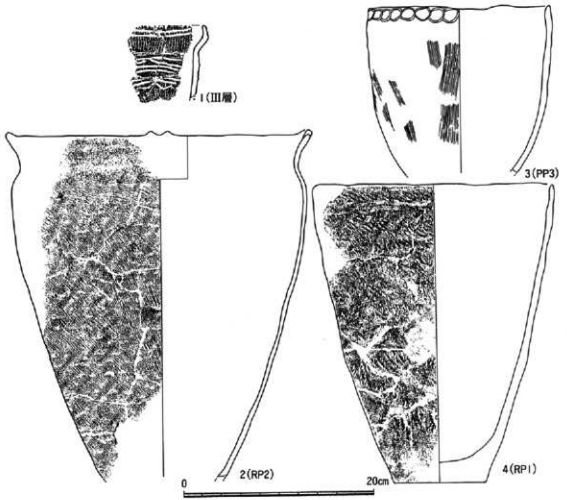
調査状況　平成7年度の試掘調査後の協議で、盛り土保存との協議が整っていたが、一部が建物の掘削範囲に入る恐れが生じたため、改めてトレンチ方式の試掘調査を実施したところ、掘削範囲ギリギリのところで縄文時代末葉の土器を含む箇所が見つかったため、この部分に限って記録保存の調査を行ったものである。

調査結果　拡張区の土層は1～Ⅲ層に大別され、Ⅲ層の灰褐色砂質シルトの上半部が包含層となっている。この包含層から変形工字文をもつ土器片とともに深鉢形土器が隣接して3個体出土した。



第102図　北柳2遺跡概要図

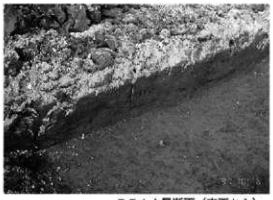




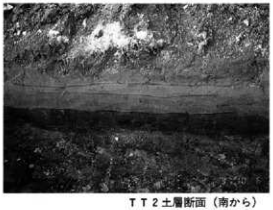
第103図　北柳２遺跡出土土器平面図他

調査区近景（西から）

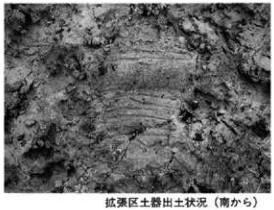
ＴＴ１全景（西から）


ＴＴ１土層断面（南西から）

ＴＴ２全景（西から）


ＴＴ２土層断面（南から）

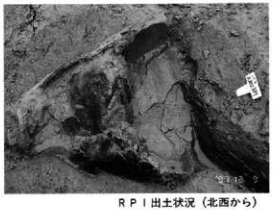
ＴＴ３全景（西から）


拡張区土器出土状況（南から）

拡張区調査状況（北から）

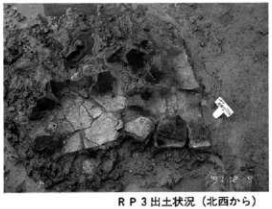
図版118　北柳２遺跡（１）

ＲＰ１～３出土状況（北から）

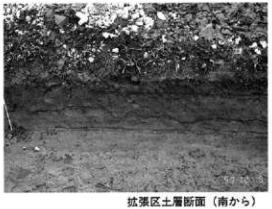


ＲＰ１出土状況（北西から）

ＲＰ２出土状況（北西から）



ＲＰ３出土状況（北西から）



拡張区土層断面（南から）

図版119　北柳２遺跡（２）

Ⅲ層

ＲＰ１

ＲＰ２

ＲＰ３

出土土器(1/3)

図版120　北柳２遺跡（３）

Ⅲ まとめ

平成９年度の遺跡詳細分布調査は、平成10年度以降に予定されている開発事業に先行して、遺跡の所在・範囲等を明らかにして開発との調整を図ることを目的として実施した。また、記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査も行った。

調査遺跡は77遺跡を数え、他に遺跡の有無を確認するために12ヶ所の試掘調査も実施し、また、表面踏査で各種開発事業予定地内で13ヶ所の遺跡可能性地も抽出した。今年度新たに発見されて、登録した遺跡は16遺跡である。また、調査の結果、位置や範囲の訂正が必要となった遺跡は15遺跡、調査後の工事で遺跡の全部が壊滅したものや、登録地全域の試掘調査でも遺跡の存在を確認できず抹消が必要となったものが５遺跡である。以下にその一覧を掲げて調査のまとめとする。

なお、本書の発行をもって、新規遺跡の登録、範囲等の訂正が周知されたものとみなす。

１．新規発見遺跡

	（遺跡名）	（所在地）	（時代）
1	大縄２遺跡	余目町大字吉方字大縄	平安時代
2	上川原遺跡	朝日町大字玉ノ井乙字上川原	縄文時代
3	長者原２遺跡	飯豊町大字小白川字長者原	縄文時代
4	板橋１遺跡	天童市大字蔵増字板橋	縄文・古墳～平安古代
5	板橋２遺跡	天童市大字蔵増字板橋	古墳時代～中世
6	蔵増押切遺跡	天童市大字蔵増字押切	古墳時代～中世
7	阿部塚遺跡	天童市大字高擶字阿部塚	平安時代
8	砂子田遺跡	天童市大字高擶字砂子田	縄文・古墳～平安時代
9	上ノ代１遺跡	上山市大字川口字上ノ代	縄文時代
10	上ノ代２遺跡	上山市大字川口字上ノ代	縄文時代
11	八幡西遺跡	川西町大字八幡字八幡西	平安時代
12	一ノ坪遺跡	山形市大字漆山字一ノ坪	平安時代
13	梅ノ木遺跡	山形市大字漆山字梅ノ木	平安時代
14	藤島Ｄ遺跡	藤島町大字藤島字古楯跡	中世
15	城南一丁目遺跡	山形市城南町一丁目	縄文・平安時代・近世
16	北沢遺跡	南陽市大字小岩沢	縄文時代

２．範囲の変更及び登録を抹消する遺跡

	（遺跡名）	（変更内容）	（変更を必要とする文献名）
1	買坂遺跡	範囲の訂正	昭和53年３月『山形県遺跡地図』
2	下当山遺跡	範囲の訂正	昭和53年３月『山形県遺跡地図』
3	大縄１遺跡	範囲の訂正	平成９年３月『分布調査報告書（24）』
4	太夫小屋１遺跡	範囲の訂正	平成９年３月『分布調査報告書（24）』
5	太夫小屋２遺跡	範囲の訂正	平成９年３月『分布調査報告書（24）』
6	立泉川	範囲の訂正	平成９年３月『分布調査報告書（24）』
7	中川原Ｃ遺跡	範囲の訂正	平成９年３月『分布調査報告書（24）』
8	泉ヶ丘遺跡	範囲の訂正	昭和53年３月『山形県遺跡地図』
9	樋渡遺跡	範囲の訂正	平成３年３月『分布調査報告書（18）』
10	百目鬼遺跡	範囲の訂正	昭和53年３月『山形県遺跡地図』
11	谷柏Ｊ遺跡	範囲の訂正	昭和53年３月『山形県遺跡地図』
12	オサヤズ窯跡	範囲の訂正	昭和53年３月『山形県遺跡地図』
13	中山城跡	範囲の訂正	平成８年３月『山形県中世城館跡調査報告書第２集』
14	沢田遺跡	範囲の訂正	昭和60年３月『沢田遺跡発掘調査報告書』
15	逆川遺跡	登録の抹消	昭和53年３月『山形県遺跡地図』
16	立泉川２遺跡	登録の抹消	平成９年３月『分布調査報告書（24）』
17	田制館跡	登録の抹消	平成７年３月『山形県中世城館跡調査報告書第１集』
18	昭和新田遺跡	登録の抹消	平成９年３月『分布調査報告書（24）』
19	八ツ目久保遺跡	登録の抹消	平成９年３月『分布調査報告書（24）』
20	万騎の原遺跡	位置の訂正	昭和53年３月『山形県遺跡地図』

表－3　掲載遺跡位置図（2万5千分の1）索引

No.	遺跡名	図幅名	No.	遺跡名	図幅名
1	大縄1	藤島	37	樋渡	山形南部
2	大縄2	藤島	38	百目鬼	山形南部
3	貫坂	吹浦	39	萩原	山形南部
4	下当山	吹浦	40	谷柏J	山形南部
5	家際	酒田北部	41	石田	山形南部
6	太夫小屋1	米沢北部	42	六壇	山形南部
7	太夫小屋2	米沢北部	43	オサヤズ	山形南部
8	立泉川	新庄	44	オミロク	山形南部
9	中川原C	新庄	45	上ノ代1、2	上山
10	泉ヶ丘	新庄	46	中山城	羽前中山
11	上川原	宮宿	47	飛泉寺跡	小国東部
12	羽根沢C	富並・延沢	48	小叶水	叶水
13	横山小学校前	富並・延沢	49	原徳原館	羽前小松
14	西山	余目	50	八幡西	羽前小松
15	西館	荒砥	51	古屋敷	吹浦
16	長者原	羽前上郷・長井	52	一ノ坪	山形北部
17	畑ヶ沢	羽前上郷・長井	53	梅ノ木	山形北部
18	原	上山	54	下柳A	山形北部
19	岩谷	宮宿	55	高瀬山	寒河江
20	八反	谷地	56	落衣長者屋敷	寒河江
21	長者原	手の子	57	欠の上	上名川
22	長者原2	手の子	58	三滝	差首鍋・及位
23	野山IV	手の子	59	三滝2	差首鍋・及位
24	横山	手の子	60	大樽	米沢
25	万騎の原	羽前赤倉	61	藤島D	藤島
26	下原a	米沢東部	62	山田	鶴岡
27	飯沢館	長井	63	城南一丁目	山形北部・山形南部
28	飯沢北館	長井	64	北沢	中山
29	的場	寒河江	65	箕輪楯	吹浦
30	板橋1	寒河江	66	大清d	米沢北部・豊野目
31	板橋2	寒河江	67	四ツ塚	谷地
32	蔵増押切	寒河江	68	北柳2	山形北部
33	阿部塚	寒河江	69	田制館	羽前小松
34	中袋	寒河江	70	米沢城跡	米沢
35	砂子田	寒河江・山形北部	71	荒谷原・山王	天童・山寺
36	影沢北	山形北部	72	沢田	赤湯

II部

小山崎遺跡発掘調査報告書（2）

―― 石器、骨角器、土製品、木製品 ――

IX　出土した石器、石製品

発掘調査で出土した石器は96点であり、その内訳は下表に示した。打製石器の石材は頁岩、メノウ、玉髄、鉄石英、黒曜石等多様であり、頁岩が最も多いが県内の他の石器時代の遺跡と比較するとその全体に占める割合は高くはない。頁岩を採取できる最上川や相沢川までの距離が20kmを越えることもその一因であろう。頁岩以外の石材は大きくても握り拳大で、石核、剥片とも概して小形である。

確認された器種は打製石器の石鏃、石錐、石匙、石篦、掻器、削器、ピエスエスキーユ、磨製石斧、礫石器の磨石、凹石、石錘、石皿がある。剥片の一部に不規則な加工のあるものを除く、いわゆるトゥールは334点であり、全体に占めるトゥールの割合が高い。打製石器が66点、磨製石器が22点、礫石器が246点となっている。その比率は打製石器19.8%、磨製石器6.6%、礫石器73.6%で礫石器の比率が極めて高いということができる。

石製品では粘板岩製の石棒2点（48、49)、偏平な礫の周辺を打ち欠いた円盤状石製品6点（図版5)、ヒスイの斧形の製品1点（37）がある。次に各器種の概要を記す。

出土石器一覧

地点	T1									T2		T3												
	1区		2区		3区		北端					東	東深掘区			西	西深掘1区							
器種	IV	III	IV	III	IV	III	V	IV	III	III	II	II	VII	V	IV	II	X	IX	VIII	VII	VI	V	IV	III
石鏃	2		1				2									1							1	
石錐	1						2	2		1						1								
石匙		2	1					1						1		1								
石篦							2	2		1														1
掻器	1						1	1										1	1			1	1	
削器	1	3	1			1	1	1	1	2		3					1	1					2	1
ピエスエスキーユ																	1							
小計	5	5	3	0	0	1	8	7	1	4	0	3	0	1	0	3	2	2	1	0	0	1	4	2
磨製石斧	4		2				3	1				2		1					1		4		1	
磨石	7	5	6		5		40	46	3	6	12	7	1	2		2	5	3	5		1	2	10	3
凹石	3						8	7			2								1		2			
石皿																								
石錘																								
小計	10	5	6	0	5	0	48	53	3	6	14	7	1	2	0	2	5	3	6	0	3	2	10	3
加工剥片	3	4					7			2	3					3			2		3		2	3
剥・砕片	85	48	23		3	2	116	6	6	29	23	13	2		6	10		3	41	6	4	38	7	15
石核	5	2	2				4	1		5	3	1			1				3		3	7		
小計	93	54	25	0	3	2	127	7	6	36	29	14	2	0	7	13	0	3	46	6	10	45	9	18
合計	112	64	36	0	8	3	186	68	10	46	43	26	3	4	7	18	7	8	54	6	17	48	24	23

地点	T3						T4	T5	T6	T8			T9										T10	T11		合計
	西2			西3	西4	西5				北1	北5		北1		北2区		2西拡		2東拡		北3	北4	北1	北2	北3	
器種	IV	III	II	VI	III	III				V	V	II	III	II	V	IV	V	IV	V	IV	X	X	IV	X	X	
石鏃			1				1																1			10
石錐																1							1			9
石匙			1	1										1						1						10
石篦										1		1										1				9
掻器				1																						8
削器																										19
ピエスエスキーユ																										1
小計	0	0	2	2	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	2	0	0	66
磨製石斧								1							1	1										22
磨石	5	6		6	5	4		2	2	3					1	3				5						213
凹石			2	1				2		1					1	1										31
石皿																			1							1
石錘																								1		1
小計	5	6	2	7	5	4	0	4	2	4	0	0	0	0	2	4	0	0	1	5	0	0	0	1	0	246
加工剥片				2				1					1				1	1					1			39
剥・砕片	1			15	6			7		2			5		4		5	6		1	9	2				549
石核				3	1			1					1				2									45
小計	1	0	0	20	7	0	0	9	0	2	0	0	7	0	4	0	8	7	0	1	9	2	1	0	0	633
合計	6	6	4	29	12	4	1	14	2	7	0	1	7	1	7	6	8	7	1	7	9	3	3	1	0	967

石　　鏃（第1図　1～12）

10点が出土した。1、2は前期の包含層からの出土で、3、4もその可能性がある。6の基部にはアスファルトが付着している。2、6、9、11、12が頁岩、3～5、8が玉髄、1、7、10はメノウ製である。

石　　錐（第1図　12～16）

9点が出土した。長い尖頭部を持ち、この部分の断面形が四角形となる13、16、断面形が凸レンズ状となる14、尖頭部と基部の境界が不明瞭で棒状の形となる15の他、剝片の末端にノッチ入れて尖頭部を形成しているもの等がある。

石　　匙（第1・2図　17～22）

10点の出土がある。摘み部が欠損しているが縦形で縁辺部に丁寧な加工が施される17、18は前期の可能性が高い。19の摘み部にはアスファルトが付着しており、幅0.5㎜程の横走する空白部が観察される。摘みに紐を巻いてアスファルトで固定したものと考えられる。

石　　箆（第2・3図　23～28）

9点の出土があるが、26～28のように製作段階の未製品も存在する。小形で刃部の両面に樋状剝離が認められる23や刃部が片面加工となる24、25などがある。

掻　　器（第3図　29～32）

剝片の末端や基部、或は側縁に角度の高い加工を施して刃部とする石器で8点の出土がある。29は素材の基部側に刃部をもつ縦形の掻器である。

削　　器（第3・4図　33～36）

剝片の側縁や末端に素材の主要剝離面側から背面に連続する角度の低い調整加工を施して刃部とする石器で19点の出土がある。36は素材の末端に刃部をもち、34は右側縁に平坦剝離が施されており、35、36は縦長剝片の右側縁に浅い加工が施されている。

ピエスエスキーユ

全長33㎜、幅18㎜で両極剝離をもつ石器が1点出土している。

磨製石斧（第4・5図　38～48）

22点の出土がある。完形品は39に示した小形の1点だけである。刃部をもつ資料が6点、基部をもつ資料が8点、中間部資料が4点、破片資料が4点となっている。

磨　　石（第6図　51～67）

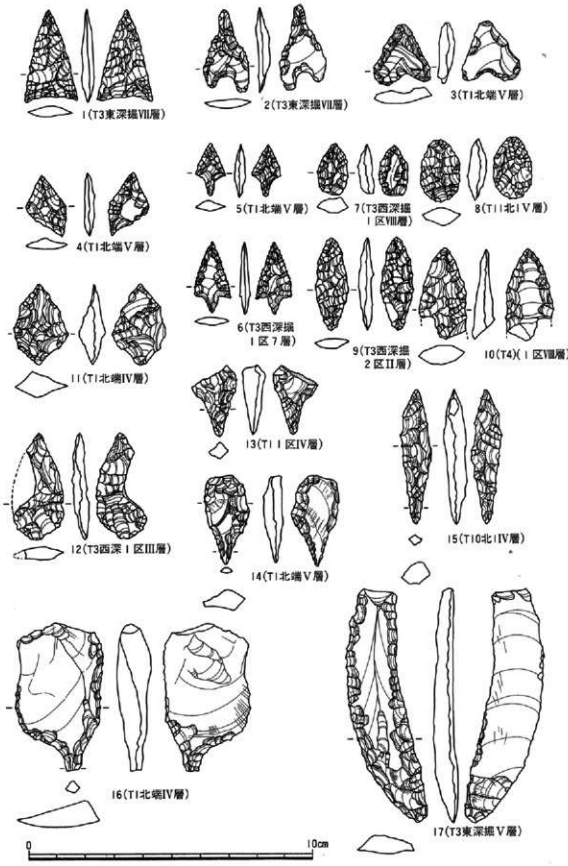
川原石の一部が使用によってすり減った礫石器で、全部で213点の出土がある。使用ですり減った面が1面から最大6面までのものが存在するが、広い礫面の表裏に磨痕をもつものが多数を占める。

凹　　石（第7図　68～78）

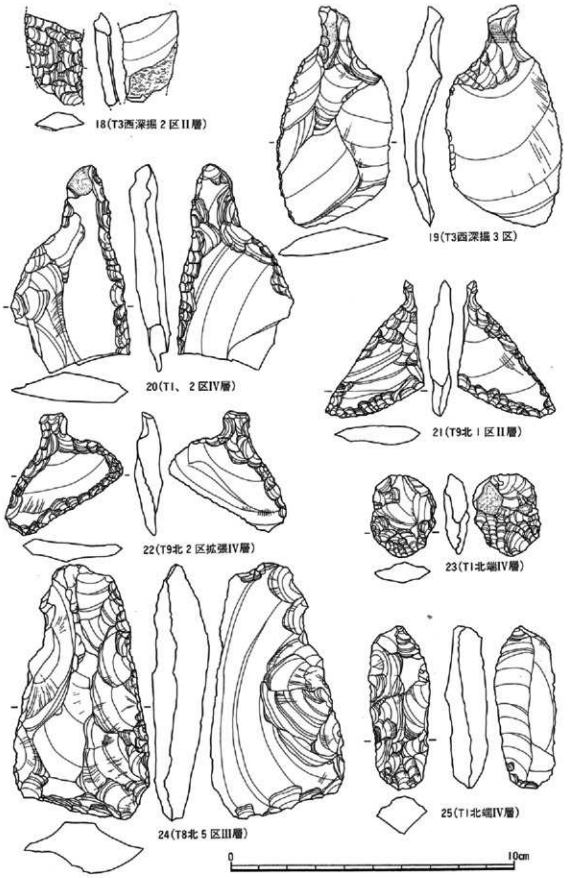
川原石の一部に敲打による凹みが認められる石器で、31点の出土がある。例外なく磨痕をもち、1面に凹みをもつもの、2面に凹みをもつもの、さらに複数の凹みが認められるものがある。

石　　皿（第7図　79）

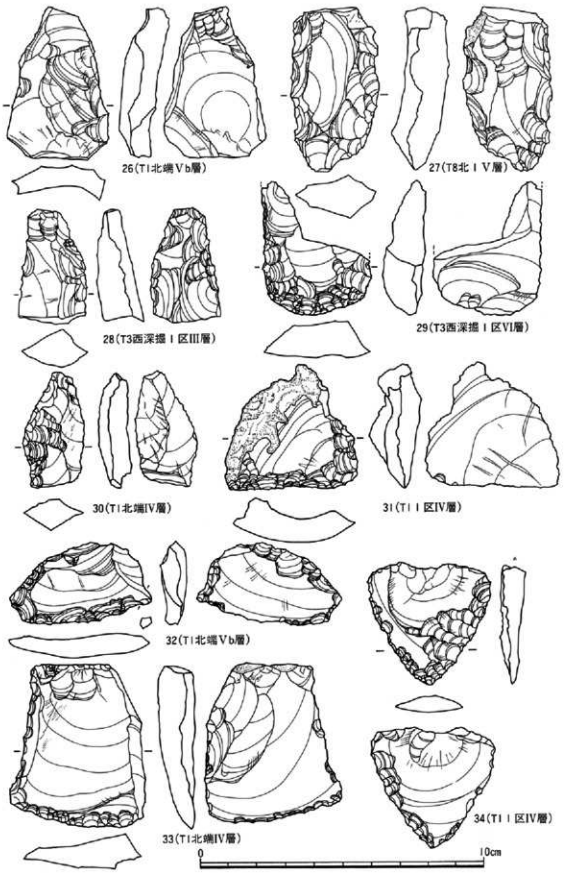
T9北2拡張区の配石遺構から中央部が擂鉢状に窪む形状の石皿が出土した。



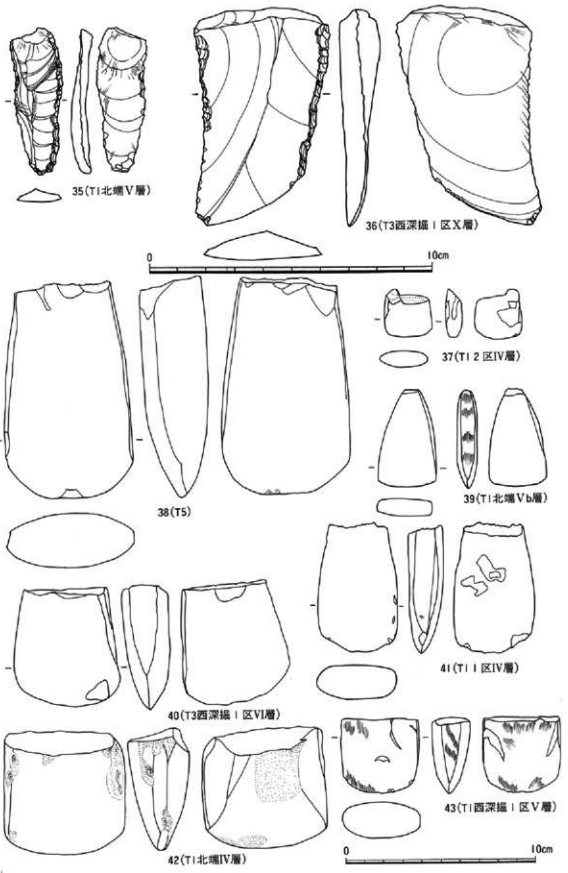
第1図　出土石器実測図（1）



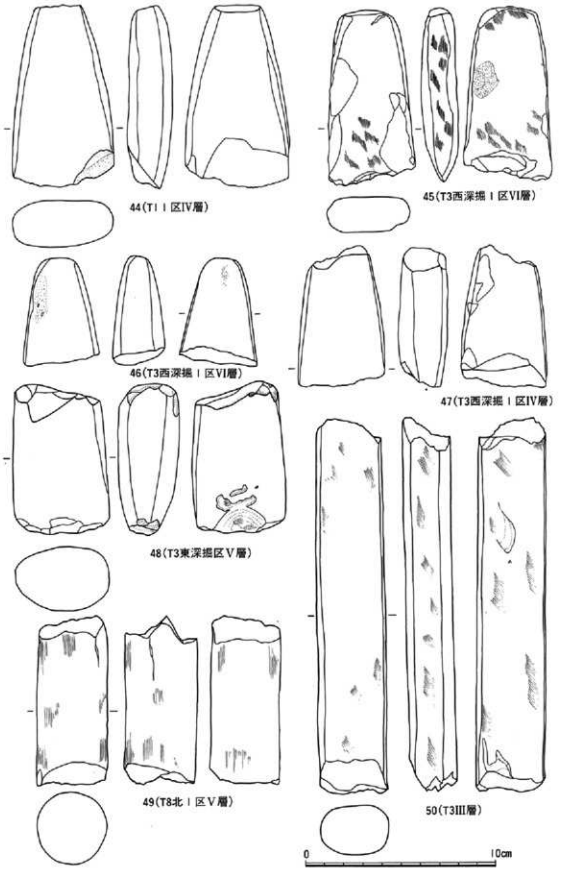
第 2 図　出土石器実測図（2）



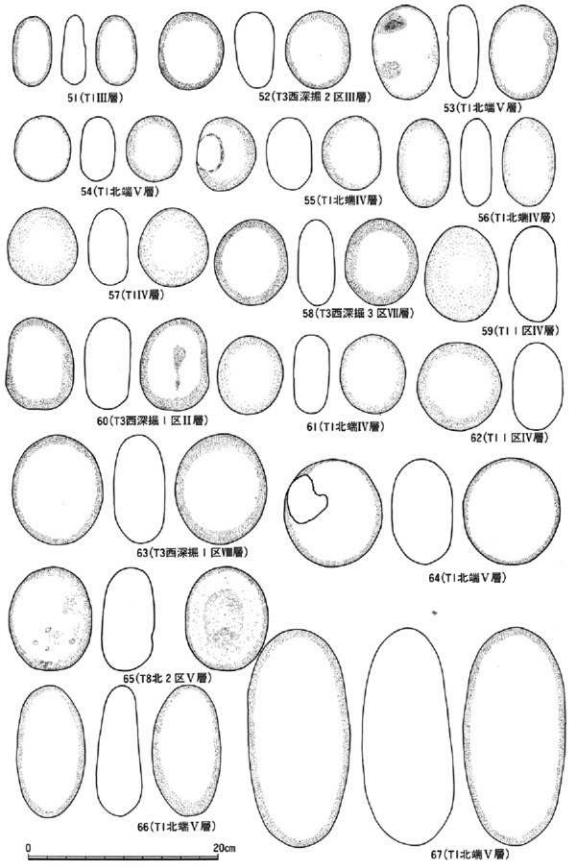
第 3 図　出土石器実測図（3）



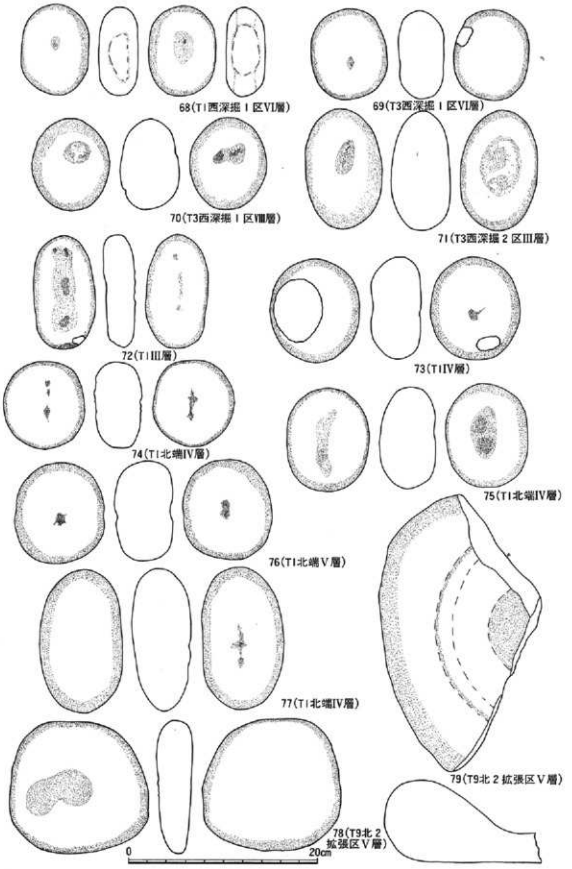
第4図　出土石器実測図（4）



第5図　出土石器実測図（5）



第 6 図　出土石器実測図（6）



第 7 図　出土石器実測図（7）

X　出土した骨角器等

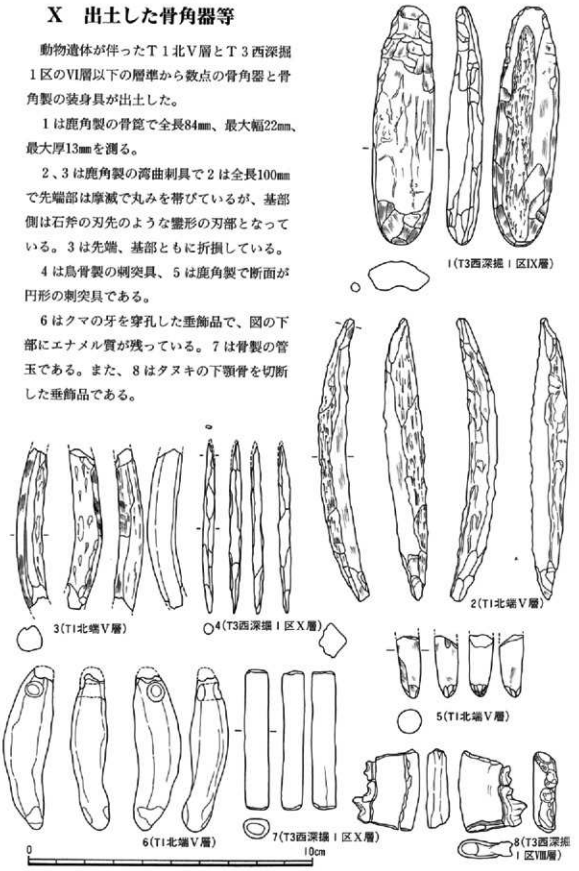
動物遺体が伴ったT１北V層とT３西深掘１区のVI層以下の層準から数点の骨角器と骨角製の装身具が出土した。

１は鹿角製の骨篦で全長84㎜、最大幅22㎜、最大厚13㎜を測る。

２、３は鹿角製の湾曲刺具で２は全長100㎜で先端部は摩滅で丸みを帯びているが、基部側は石斧の刃先のような鑿形の刃部となっている。３は先端、基部ともに折損している。

４は鳥骨製の刺突具、５は鹿角製で断面が円形の刺突具である。

６はクマの牙を穿孔した垂飾品で、図の下部にエナメル質が残っている。７は骨製の管玉である。また、８はタヌキの下顎骨を切断した垂飾品である。

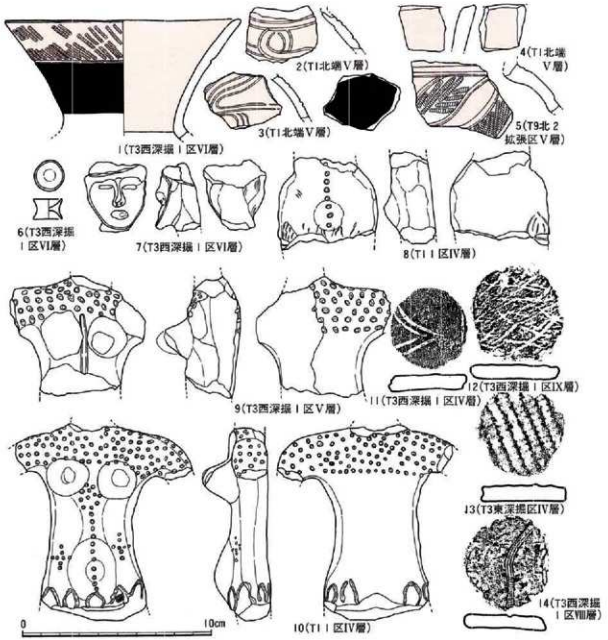


第８図　出土骨角器、骨角製品実測図

XI　出土した漆塗土器、土製品

赤漆や黒漆で彩色された土器が数点出土している。1は壺の口頸部の資料で口縁下位に、に縄文が施されてから赤漆で彩色され、その下位が黒漆、頸部から下位が赤漆、内面は全面が赤漆で彩色されている。2、3は壺の体部破片であり、細い沈線で文様が描かれた後、表面が赤漆で彩色されている。3の裏面は黒漆で彩色されている。4は表裏面とも赤漆で、5は縄文施文後に赤漆が施されている。

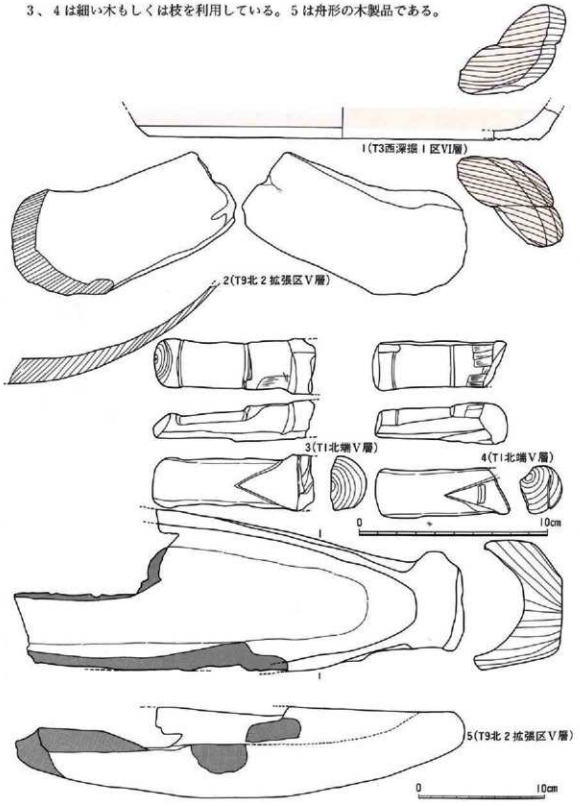
6は耳栓で全面に赤漆が施されている。7～10は土偶でいずれも後期の特徴を有している。11～14は円盤状土製品で全部で22点が出土している。



第9図　出土漆塗土器、土製品実測・拓影図

Ⅻ　出土した木製品

漆器の破片、弓の弓弭とみられるもの、舟形木製品が出土している。漆器は小破片まで含めて3点である。1は内外面赤漆の盤、2は赤漆の痕跡が残る大形の高坏と考えられる。3、4は細い木もしくは枝を利用している。5は舟形の木製品である。



第10図　出土木製品実測図

Ｔ３西深掘Ⅰ区Ⅵ層出土漆器盤（外面）

同左（内面）

Ｔ９北２拡張区出土漆器（外面）

同左（内面）

Ｔ３西深掘Ⅰ区Ⅵ層出土漆塗土器壺（外面）

同左（内面）

Ｔ１他出土漆塗土器

Ｔ１、Ⅴ層出土木製品

図版Ⅰ　小山崎遺跡漆器、漆塗土器

装飾品、アスファルト付着石器

骨角器

図版2　装飾品、アスファルト付着石器、骨角器

T３東深掘区Ⅵ層出土石鏃、石匙

T１・３・４出土石鏃（⅔）

石錐他

石匙

笏状石器

スクレイパー

磨製石斧（１）（½）

同左裏面（½）

図版３　出土石器（１）

磨製石斧（2）（½）

同左裏面（½）

磨製石斧（3）（½）

同左裏面（½）

磨製石斧（4）（½）

同左裏面（½）

石錘（½）

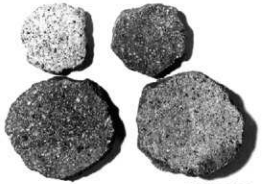
磨石（1）（½）

図版4　出土石器（2）

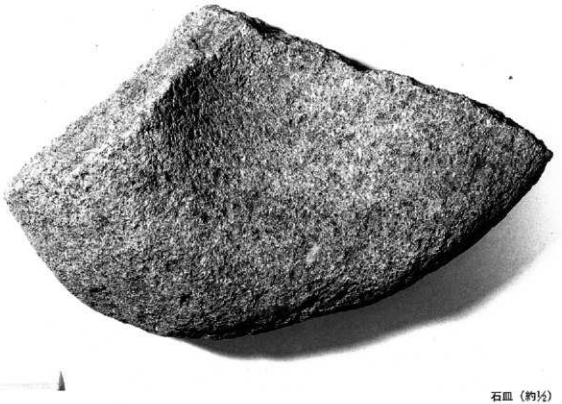
磨石（2）（½）

凹石（½）

石棒（½）



円盤状石製品



石皿（約½）

図版5　出土石器（3）

土偶（½）

同左裏面

土偶（⅓）

円盤状土製品（½）

舟形木製品（約⅓）

図版６　出土土製品、木製品

山形県埋蔵文化財調査報告書第199集

分布調査報告書(25)

平成9年度以降農林土木事業他関係遺跡
東北中央自動車道上山東根間関係遺跡
山形ニュータウン整備事業関係遺跡
小山崎遺跡発掘調査報告書（2）

平成10年3月25日　印刷
平成10年3月31日　発行
発行　山形県教育委員会
印刷　山形印刷株式会社